

平成29年度

# JAとさしの現況

ディスクロージャー誌

土佐市農業協同組合



## はじめに

日頃、皆さまには格別のご愛顧をいただき厚く御礼申し上げます。

JA とさしは、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当 JA に対するご理解を一層深めていただくために、当 JA の主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、利用者のためにわかりやすくまとめたディスクロージャー誌「平成 29 年度 JA とさしの現況」を作成いたしました。

皆さまが当 JA の事業をさらにご利用いただくための一助として、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 7 月 土佐市農業協同組合

(注) 本冊子は、農業協同組合法第 54 条の 3 に基づいて作成したディスクロージャー誌です。

## JA のプロフィール

◇正式名称	土佐市農業協同組合
◇設立	平成 12 年 4 月
◇組合員数	4,273 人
◇本所所在地	土佐市蓮池 948-1
◇役員数	16 人
◇出資金	4 億 7,338 万円
◇職員数	121 人
◇総資産	395 億円
◇支所数	2 支所
◇単体自己資本比率	22.23%
◇貯金残高	345 億円
◇貸出金残高	36 億円
◇長期共済保有高	1,482 億円
◇短期共済新契約高	3 億円
◇購買事業取扱高	16 億円
◇販売事業取扱高	61 億円

## 目 次

### ごあいさつ

1. 経営理念	2
2. 経営方針	2
3. 経営管理体制	3
4. 事業の概況（平成 29 年度）	3
5. 農業振興活動	6
6. 地域貢献情報	7
7. リスク管理の状況	10
8. 自己資本の状況	13
9. 主な事業の内容	13

### 【経営資料】

#### I 決算の状況

1. 貸借対照表	20
2. 損益計算書	22
3. キャッシュ・フロー計算書	24
4. 注記表	26
5. 剰余金処分計算書	45
6. 部門別損益計算書	47
7. 財務諸表の正確性等にかかる確認	48

#### II 損益の状況

1. 最近の 5 事業年度の主要な経営指標	49
2. 利益総括表	49
3. 資金運用収支の内訳	50
4. 受取・支払利息の増減額	50

#### III 事業の概況

1. 信用事業	51
(1) 貯金に関する指標	
① 科目別貯金平均残高	
② 定期貯金残高	
(2) 貸出金等に関する指標	
① 科目別貸出金平均残高	
② 貸出金の金利条件別内訳残高	
③ 貸出金の担保別内訳残高	
④ 債務保証の担保別内訳残高	
⑤ 貸出金の用途別内訳残高	
⑥ 貸出金の業種別残高	
⑦ 主要な農業関係の貸出金残高	
⑧ リスク管理債権の状況	

⑨ 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況	
⑩ 元本補てん契約のある信託に係る貸出金のリスク管理債権の状況	
⑪ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	
⑫ 貸出金償却の額	
(3) 内国為替取扱実績	
(4) 有価証券に関する指標	
(5) 有価証券等の時価情報等	
2. 共済取扱実績	59
(1) 長期共済新契約高・長期共済保有高	
(2) 医療系共済の入院共済金額保有高	
(3) 介護共済の年金保有高	
(4) 年金共済の年金保有高	
(5) 短期共済新契約高	
3. 農業関連事業取扱実績	61
(1) 買取購買品（生産資材）取扱実績	
(2) 受託販売品取扱実績	
(3) 利用事業取扱実績	
(4) 直販事業取扱実績	
4. 生活その他事業取扱実績	62
(1) 買取購買品（生活物資）取扱実績	
(2) 利用事業取扱実績	
5. 指導事業	62
IV 経営諸指標	
1. 利益率	63
2. 貯貸率・貯証率	63
3. 職員一人当たり指標	64
4. 一店舗当たり指標	64
V 自己資本の充実の状況	
1. 自己資本の構成に関する事項	65
2. 自己資本の充実度に関する事項	67
3. 信用リスクに関する事項	69
4. 信用リスク削減手法に関する事項	73
5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項	74
6. 証券化エクスポージャーに関する事項	74
7. 出資その他これに類する等エクスポージャーに関する事項	75
8. 金利リスクに関する事項	76
<b>【役員等の報酬体系】</b>	
1. 役員	77
2. 職員等	77
3. その他	77

【JA の概要】

1. 機構図	78
2. 役員構成（役員一覧）	79
3. 組合員数	80
4. 組合員組織の状況	80
5. 地区一覧	81
6. 店舗等のご案内	81

## ごあいさつ

日本経済は緩やかな回復基調にある一方、地方においては少子高齢化や人口減少は一層進展していく中、長期金利は今後も0%程度で推移することが見込まれます。農政の情勢においては、政府は企業や大規模農家に軸足を置いた方向で進んでおり TPP11 や日米二国間貿易交渉の動向を今後も注視していく必要があります。

JA とさしとしては、「農業者の所得増大」や「農業生産の拡大」と「地域の活性化」に向けた更なる自己改革の実施と平成31年1月1日発足のJA高知県に向けた取組みを重点実施事項として取組みました。

このような状況下、すでに取組みのできたこと、また現在継続進行中の計画（中央集出荷場）の案件もある中、単独で実現できなかった県域全体を視野に入れた効率的な計画策定と実現に向けた取組みとして、すでにキュウリ部会においては、JA コスモスに加え、平成30園芸年度からはJA 四万十の生産者の受込みも始まっております。引続き他の品目においても検討を重ねてまいります。

平成29年度は、平成29年1月18日開催の統合総代会において平成31年1月1日の県域1JA を目指していくことを決議いただき、統合まで2事業年度となった中、自己改革の実践と構想の実現に向け基本方針ならびに事業計画に基づき役員一丸となり取組みましたが、マイナス金利政策導入以降続く貸出金利低下の加速や利鞘の縮小による収支悪化に加え、経済部門において近年にないような異常気象に見舞われ苦戦しました。結果といたしまして事業総利益は8億9,613万円（計画対比101.5%）収支面におきましては事業利益3,785万円（計画対比1235.1%）、経常利益7,278万円（計画対比219.9%）の実績となりました。

組合員皆様方のご理解とご協力に感謝いたしますとともに、引続きご協力をお願いいたします。

土佐市農業協同組合  
代表理事組合長 馬場 義人

## 1. 経営理念

地域農業の振興と組合員の生活と経営の向上を目指し、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本理念にしていまいます。

## 2. 経営方針（リレバン）

### ◇自己改革の実現に向けた取組み

#### ①県域 JA 設立に向けた取組み

当組合では、平成 31 年 1 月の JA 高知県発足に向けて、合併参加 JA および中央会・連合会と共に設立準備作業を進めて参りました。

平成 30 年度は、発足当初の JA 高知県の円滑な運営にむけた実践準備期間として、事業毎の諸課題の解消に取り組むとともに、合併後の業務を想定した体制により業務を進めて参ります。

#### ②JA グループ高知担い手サポート連絡協議会を活用した取組み

JA グループ高知では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を目指した「自己改革」に取り組んでいます。

平成 27 年 12 月には、高知県内の JA グループが力を合わせて農業者をサポートするための組織、「JA グループ高知 県域担い手サポート連絡協議会」（以下、協議会）を設置しました。

協議会では、「自己改革」に基づく農業者の方々への目に見える支援方策として、全国の JA 組織と連携して資金を出し合い、総額 6 億円を基にした高知県独自の助成事業（県域企画応援事業）を構築し、平成 28 年度から助成を開始しています。

また、全農においても、生産資材コスト削減に向けた自己改革が進められており、低コスト資材の普及・拡大、戦略的な価格設定、担い手対応などの具体的な取組みが進んでいます。

平成 30 年度は当 JA における担い手サポート協議会を中心に、県域担い手サポート連絡協議会の事業を積極的に活用して、農業者の所得増大・地域の活性化に向けて、自己改革の取組みを進めます。

具体的な取組み計画は以下の通りです。

### 【JA グループ高知担い手サポート連絡協議会関係】

事業名	内容
高知県版アグリシードリース事業	コスト低減に取り組む農業者等に対し、農機具等の導入に係るリース料の一部を助成することにより、農業所得の増大につなげることを目的とする。
新品目・新技術・新作型導入支援事業	将来的に有望な品目の発見・選別や作型のモデルケースづくり、新技術の導入を通じ、農業所得の増大、産地の育成・強化を図るための取組み。
新規就農者支援事業	経営・収支が不安定になることの多い新規就農者に対し、他の生産者とのつながりを支援して技術の向上を促すと共に、就農時に必要となる資金の一部を支援することで経営の安定や就農時の負担を軽減することを目的とする。



### 3. 経営管理体制

#### ◇経営執行体制

当 JA は農業者により組織された協同組合であり、正組合員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を踏まえ、総代会において選出された理事により構成される「理事会」が業務執行を行っています。また、総代会で選任された監事が理事会の決定や理事の業務執行全般の監査を行っています。

組合の業務執行を行う理事には、組合員の各層の意思反映を行うため、女性部から理事の登用を行っています。また、信用事業については専任担当の理事を置くとともに、農業協同組合法第 30 条に規定する常勤監事及び員外監事を設置し、ガバナンスの強化を図っています。

### 4. 事業の概況（平成 29 年度）

#### (1) 営農指導事業

農業所得の確保では、現地検討会の実施や日々の巡回指導による病虫害対応、情報提供等を行うとともに、施設野菜を中心に環境制御機器の導入に取り組み、反収向上を図りました。

また、加温品目での燃油対策事業を新たに行うとともに、土壌分析の実施による適正施肥の提案、購買渉外担当と連携した予約注文と推進を実施しました。

営農指導員の育成においては、関係機関等の開催する技術研修会に参加し資質向上を図りました。

生産基盤の維持として、園芸用ハウス整備事業による支援を 4 圃場実施し、ハウス面積の維持を図るとともに、果樹においても灌水設備・モノレールを 8 圃場に整備し優良園地の確保を行いました。

また、遊休農地の解消において関係機関と連携した空圃場の情報提供等、遊休農地解消に努めました。

担い手の確保において、労働力確保対策の検討を関係機関と行い、確保に努めたものの十分ではなく、引き続き検討を行います。

新規就農者確保においては、関係機関との連携による県内外での就農相談会への参加や、個別面談により確保に努めました。また、新規就農者 2 名が営農を開始し、JA 実践ハウスの活用を行い、関係機関とともに支援を行っています。

#### (2) 販売事業

農業改革、社会・消費構造の変化など農業をめぐる情勢の厳しい中、関係機関・出荷者と一体となり生産・計画出荷、販売促進に取り組みました。

平成 29 年度は、昨年度の JA コスモスに続き、JA 四万十よりキュウリを取扱うようになり、取扱量の確保に努めました。

品目部会活動につきましては、園芸部役員をはじめ多数の生産者に参加いただき、県共計品目、文旦、花き類、その他品目等、県内外の品評会・消費宣伝・商談会・産地視察、店舗での試食宣伝を実施、JA とさし産の PR 活動を行いました。

また全国農業担い手サミットや、がんばる国産ピーマンプロジェクトをはじめとする交流会へ生産者と共に参加をしました。

営農指導課との連携で園芸部主催の品評会を開催、みのり祭りを通じ消費者との交流を図りました。

JA 高知県設立に向けた内部統制、県域での販売強化を高めるための県共計計算コードの集約等の協議を行いました。また、異物混入、品質トラブルを未然に予防する取組みとして「集出荷場版 GAP」を実施しています。

宇佐集出荷場の造成工事は終了し拡張・機械の更新計画を進めています。中央集出荷場の整備計画に関しましては、協議進行中です。

一昨年前の夏場の異常気象、天候不順等により夏秋野菜の収量減、価格の高騰の反動を受け本県主力である共計品目等施設野菜の価格に影響し、29 事業年度当初である 6 月まで厳しい販売となり、夏以降は前年同様、天候不順により特に葉菜類の高騰が見られ消費動向が懸念されましたが施設物が始始める頃には数量、価格も落ち着き 11 月から昨年を上回る単価で推移しました。土物、果実、花卉類に関しては天候不順より品質低下による出荷量減、消費の低迷で販売に苦戦しました。

販売実績としましては、販売事業総利益 1 億 5,999 万円、計画対比 92.0%の結果となりました。

### (3) 購買事業

農家組合員に対し、生産資材では対象作物を拡大させ予約購買を実施しました。また、生活資材につきましても、女性部の皆様に A コープ商品見本市等へご協力を頂き、併せて職員による組合員・地域住民へ推進活動した結果、購買事業への理解と認知度を高めることができ、供給高 16 億 9,677 万円 計画対比 102.5% 事業総利益 1 億 9,876 万円 計画対比 95.8%の結果となりました。

#### 【生産資材】

**肥料**：全農担い手要領の活用、多様化する組合員のニーズに応えるべく市場調査を行い、価格抑制・安定供給・新規商品の提案をすることができました。今後も組合員のニーズに応えるべく情報収集に努め提案を継続していきます。

**農薬**：本年度も市場調査・組合員への聞き取り、併せて他産地の情報収集を実施しました。今後も引き続きコスト低減に努めていきます。

**農業資材**：年間を通じて、主要季節商品を中心に一括仕入れを実施しコスト低減に努めました。

**営農用燃料**：単価面では、全農こうちへ価格交渉をおこなった結果、本年度は大幅な価格上昇もなく価格安定することができました。

#### 【生活資材】

**葬祭事業**：(株)JA メモリアルこうち・JA 共済連のご協力を頂き、終活相談会を開催し、葬祭関連事業の認知度向上及び利用者数の増加を得ることができました。

**家庭用燃料**：定期的なキャンペーンを継続し利用量の維持拡大に努めました。灯油配送体制は一部再構築できたものの、今後も増える炭酸ガス用灯油と現状の民生用灯油の安定供給に課題を残すこととなりました。

#### 【店舗部門】

**みのり館購買**：季節に応じた商品の充実を図り供給拡大に努めました。併せて女性部を対象とした園芸勉強会を開催しました。また予約購買・経済渉外担当との連携により計画配送を行いました。

**戸波購買**：組合員ニーズに対応した品揃え、予約購買による低コスト資材の供給拡大に努めまし

た。

**新居購買**：経済渉外担当と連携し出向く活動を行いました。十分な活動とは言えず定期的な訪問には至りませんでした。店舗では配置換え・商品見直しにより供給拡大につなげることができました。

#### (4) 信用事業

平成 29 年度は JA バンク 高知 中期戦略「平成 28 年度～30 年度」に基づき、これまで進めてきた農業メインバンク機能・生活メインバンク機能の定着化と強化を図り、貯金、貸出金における伸長、地域シェアの向上と、農業制度改革の動向を踏まえ「農業所得の増大と地域の活性化」を目指し、担い手農業者からの資金要請に対応し、農業者の経営に応じて適期・適切な資金を提供できるようサポートに努め、組合員等の満足度の向上に取り組みました。

生活メインバンクとして、多種多様な利用者ニーズに基づき、各種キャンペーン・年金相談会・ローン相談会を実施しました。年金推進体制は「年金トレーニー制度」に参加、年金専門員研修を受講、年金相談・推進実践等、年金知識を習得し年金渉外の育成を図りました。また、「現場営業力強化プログラム」の導入により、利用者との接点を最大限活用し、ニーズにあった情報を提供する等、窓口での応対・提案推進を継続的に取り組みました。

事業推進は、個人貯金の獲得に重点を置き、夏・冬の県下統一貯金キャンペーンと春の地域応援定期貯金キャンペーンにより定期貯金の純増に取り組みました。個人貯金では、前年を少し上回りましたが、総貯金平均残高 363 億円に対し 351 億円（計画対比 96.6%）と目標を下回る結果となりました。貸出金については、平残目標 38 億円に対し 38 億 6 千万円（計画対比 101%）、JA カード目標 20 枚に対し 24 枚の実績（計画対比 120%）、年金目標 140 件に対し 172 件の実績（計画対比 123%）と目標を上回ることができました。事業総利益につきましては、事業収支計画を上回る 2 億 5,626 万円（計画対比 103.7%）をあげることができました。

#### (5) 共済・推進事業

平成 29 年度は、「ひと・いえ・くるまの総合保障」による、組合員・利用者および地域住民への「安心」と「満足」の提供・豊かな生活づくりを目的に取り組んでまいりました。又、「3Q 訪問活動」をとおり地域特性に応じた推進活動とともに、保障提供を行ってきました。

一方で、地域貢献活動として、土佐市管内の保育園・幼稚園の年長児を対象に交通ルールを学ぶ「親と子の交通安全ミュージカル」を開催しました。

事業推進については、前半、生命系や新規契約が低調で苦慮しましたが本年度、建物更生共済の仕組改訂があり、これをメインに LA 及び、全職員で推進に取り組んだ結果、長期共済新契約 7 億 5,000 万円の目標を達成することができました。年金共済についても達成しましたが医療・介護共済については、目標を下回る結果となりました。

以上、事業実績により、推進目標の総合達成は叶いませんでしたが事業費用を押さえることができたこともあり、事業総利益については、事業収支計画を上回る 2 億 8,265 万円（計画対比 107.1%）を上げることができました。

#### (6) 総務部門

平成 29 年度は、第 6 次経営計画の 1 年目として、経営理念にある「地域の活性化」を基本目的の中活動してまいりました。

主な活動として、JA まつりとして開催した「みのり祭り」は、園芸部の品評会に合わせて開催

し、ステージではピーマンの袋詰め大会、海洋高校によるマグロの解体ショーなどを実施し、食と農を通じた交流を行いました。

また、地域の子どもたちによるダンスやよさこい踊りの発表も行いました。女性部や青壮年部、職員が一体となり、料理や農産物販売等を行い、JA、組合員、地域住民の皆さまとの交流をはかりました。

ちやぐりん園芸塾では、土佐市内の小学生（平成 29 年度は 25 名が参加）を対象として農業体験の講座を年間 7 回実施しました。農業体験・収穫体験・調理実習を行い、食と農について楽しく学びました。特に、文旦やいちご、ピーマンの収穫体験は土佐市の特産品ということもあり、子どもたちの反応もよく、多くを学ぶことができました。

JA とさし女性部では、研修旅行や、家の光協会が発刊する“協同のこころ”を家庭ではぐくむ雑誌「家の光」の記事を用いた、健康体操、手芸、料理、朗読等を通じ部員間の交流をはかりました。また、新規部員獲得のため、地域住民も参加できる料理講習会やみそづくり体験など、新たな企画も実施し、多数の参加がありました。

上記活動を広報誌や、ディスコロージャー誌を通じて組合員をはじめ地域住民の皆さまへ発信するとともに、JA に対する理解醸成に努めてまいりました。

職員の基礎的知識向上のため、資格取得や階層別研修、JA の将来を担う中核人材研修等へ参加いたしました。活力ある職場づくりの推進においては、JA 高知中央会と共に、中核人材研修修了生による意見交換や、入組後 5 年未満の職員を対象とした研修会を開催いたしました。また、農協自己改革における当組合としての取組み、政府の農協改革の考え、スケジュール等を全職員で共有し、一部の組合員の方々に組合員アンケートを実施いたしました。

経営の健全性の確保においては、平成 31 年度より公認会計士監査を受けていく中、資産自己査定について、事務取扱職員の研修、関係部署間との打合せを重ね、計画的な業務を遂行し、債務者の現状把握に努め、適正な引当金の計上を行いました。

#### (7) 監査部門

業務監査の実施では、業務全般を対象とした内部監査を実施し、不備及び改善事項がある場合は、所管部署への改善提案等に取組みました。

内部管理態勢整備の検証では、「JA 内部監査実施マニュアル」等を規範として、内部管理態勢整備を検証し、不祥事未然防止に取組みました。

監事監査、JA 全国監査機構監査等との連携では、各監査と指摘事項や検証項目の情報を共有化し、改善状況を検証し効果的な監査に取組みました。

### 5. 農業振興活動（リレバン）

#### ◇農業関係の持続的な取り組み

当 JA では、協議会が実施する事業のうち、「新品目・新技術・新作型導入支援事業」「担い手育成支援事業」「新規就農者支援事業」「農業者年金加入促進事業」を活用して、農業者の所得向上に向けて取り組みました。

##### ①新品目・新技術・新作型等導入支援事業

- ・イチゴ部会において、これまで設置のなかった赤色防虫ネットを導入し、野外からのアザミウマ類の侵入を抑え、薬剤防除の回数を減らすことが出来ました。
- ・循環扇を導入し、環境制御機器である炭酸ガス発生装置稼働時の課題であった温度ムラを解消しま

した。

- ・ハウス内温度の上昇を抑えることを目的に被覆資材「明瞭」を導入し、高温時期に検証を行いました。
- ・新品種として「恋みのり」を試験的に導入、収量性、輸送性に優れ、果実の揃いが良く収穫、パック詰め等が大幅に省力化出来ました。

平成 29 年度の助成金額は 352 千円でした。

#### ②担い手育成支援事業

新規就農者確保のため、受入農家及び研修生 2 名に対して支援を行った。

平成 29 年度の助成金額は 240 千円でした。

#### ③新規就農者支援事業

新規就農者 3 名に対して助成を行いました。

平成 29 年度の助成金額は 300 千円でした。

#### ④農業者年金加入促進事業

農業者年金政策支援加入者に対して助成金が交付された。

平成 29 年度の助成金額は 60 千円でした。

## 6. 地域貢献情報

### ◇社会貢献活動

#### 1. 献血活動

定期的に当組合の敷地内に献血車が来て、役職員が積極的に献血に協力しています。

#### 2. 偽造キャッシュカード対策

ATM の操作画面は覗き見防止画面となっており、後方確認ミラーや防犯カメラを設置するなど偽造キャッシュカード対策に取り組んでいます。更に、視覚障がい者に対して音声案内ができる仕様になっています。

#### 3. 地域清掃・ボランティア活動

地元住民・各種団体・行政と協力し、JA 管内を通る河川周辺の清掃活動に参加しています。さらに、青壮年部主体のもと、国道沿いの清掃活動を行っています。

◇地域貢献情報

開示項目	開示内容
○ 全般に関する事項	
協同組合の特性	<p>当組合は、土佐市を事業区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助を共通理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する地域金融機関です。</p> <p>当組合の資金は、その大半が組合員の皆様からお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当組合では資金を必要とする組合員の皆様や、地方公共団体などにもご利用いただいています。</p> <p>当組合は、地域の一員として、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。また、JAの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助け合いを通じた社会貢献に努めています。</p>
組合員数	4,273人
出資金	473,380千円
1. 地域からの資金調達の状況	
(1) 貯金残高	34,462,643千円
(2) 貯金商品	JAバンク貯蓄キャンペーン（グッズ等による顧客誘引） 特別金利キャンペーン（共済満期受入）
2. 地域への資金供給の状況	
(1) 貸出金残高	3,642,684千円
組合員等	2,752,504千円
地方公共団体等	662,029千円
金融機関	201,000千円
その他	27,150千円
(2) 制度融資取扱い状況	認定農業者の認定を受け、制度資金の特例扱いにより低い金利、見積額の100%が借入れできる等の特典があり、申し込みが増加しています。
(3) 融資商品	制度資金で対応できない組合員（借入手続きが簡単、実行までの期間が短い、事前着工のため、制度資金が使えない等）に対し、農業経営基盤の形成に必要な資金需要に応えることを目的としたジャンプアップ資金があります。ローンインフラ整備として、高知県農業信用基金協会保証によるJA統一ローンに加え、協同住宅ローン（株）及び三菱UFJニコス（株）保証によるJAバンクローンをご用意しております。

3. 文化的・社会的貢献に関する事項（地域との繋がり）	
(1) 文化的・社会的貢献に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食への地元農産物の提供、農業体験学習や地元農産物を使った加工品の作成実習などを通じて、食農教育を促進しています。</li> <li>・地域行事や地域活動（地域産業祭など）に積極的に参加・参画しています。</li> <li>・絵や作文のコンクールを開催し、児童の地域文化の向上を支援しています。</li> <li>・環境問題について、青壮年部等の清掃活動などを通じて積極的に取り組んでいます。</li> <li>・各種ボランティア活動に積極的に参加しています。</li> </ul>
(2) 利用者ネットワーク化への取り組み	年金友の会や共済友の会を設置し活動を行っています。
(3) 情報提供活動	広報誌「げんきネット」（毎月発刊）、ホームページを通じて利用者の方々への情報提供を行っています。
(4) 事業継続計画（BCP）の取り組み	東日本大震災を教訓に近い将来に来ることが予想される南海地震に対し、組合員、地域住民及び役職員の生命の安全を確保し、災害時に必要な設備・物資を備え役職員が適切に行動するために必要な事項を定め、災害時にも継続すべき事業を遂行し社会的責任を果たすことを基本方針として大規模災害時に対応できるよう取り組みを始めています。
(5) 店舗体制	本所・戸波支所・新居支所の1本所2支所体制です。また、本・支所に加えて、サニーマート高岡店・サンシャインオリビオ店・旧本所（波介）・旧北原支所前・旧宇佐支所前及びみのり館にATMを設置しています。

#### ◇地域密着型金融への取り組み

##### (1) 農業者等の経営支援に関する取組方針

農業者の記帳支援およびパソコン簿記研修を開催し、各農業者の農業経営改善に向けた取り組みを支援しています。

##### (2) 農業者等の経営支援に関する態勢整備

営農指導事業部門に担当職員1人を配置し、記帳支援、経営診断などを行っています。また、外部専門家として税理士とも契約を行い、税務相談等にも対応しています。

##### (3) 農山漁村等地域活性化のための融資を始めとする支援

農業者の営農から販売に至る農業経営支援の中で、担い手金融リーダー等、農業金融の専任職員による農業資金ニーズに応える相談・訪問体制の機能強化を図り、農業・農家の将来像を見据えた農業金融事業を行っています。

##### (4) ライフサイクルに応じた担い手支援

新規就農者に対しては、技術指導のほか、遊休農地、空きハウス等の情報提供を行っています。また、中核農業者に対しては、規模拡大に対応するための、遊休農地や空きハウスの情報

提供を行うほか、レンタルハウス整備事業などを活用した規模拡大支援や、各種事業を活用した取組みを行っています。

(5) 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域への貢献

平成 21 年度から始めた、「ちゃぐりん園芸塾」では、JA 土佐市管内の小学生を対象に、苗の植付けから収穫までの農業体験や、収穫物の販売体験、また収穫物等を食材にしたカレー作りなど、年間を通じて（年 7 回程度）地域の次世代に向けた食農教育活動を行っています。また、JA 土佐市管内の小中学校に対して、粃まき、田植え、稲刈りを通じた米作りや、収穫したお米やもち米を使って料理作りをする農業体験や、農業に関する出前授業を行うなどの食農教育活動を行っています。

## 7. リスク管理の状況

### ◇リスク管理体制

組合員・利用者の皆さまに安心して JA をご利用いただくためには、より健全性の高い経営を確保し、信頼性を高めていくことが重要です。

このため、有効な内部管理態勢を構築し、直面する様々なリスクに適切に対応するため、認識すべきリスクの種類や管理体制と仕組みなど、リスク管理の基本的な体系を整備しています。

また、収益とリスクの適切な管理、適切な資産自己査定の実施などを通じてリスク管理体制の充実・強化に努めています。

#### ① 信用リスク管理

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により、資産（オフ・バランスを含む。）の価値が減少ないし消失し、金融機関が損失を被るリスクのことです。当 JA は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本所に審査課を設置し各支所と連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「債権の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

#### ② 市場リスク管理

市場リスクとは、金利、為替、株式等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債（オフ・バランスを含む。）の価値が変動し、損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスクのことです。主に金利リスク、価格変動リスクなどをいいます。金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在している中で金利が変動することにより、利益が低下ないし損失を被るリスクをいいます。また、価格変動リスクとは、有価証券等の価格の変動に伴って資産価格が減少するリスクのことです。

当 JA では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすること



により、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視した ALM を基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

### ③ 流動性リスク管理

流動性リスクとは、運用と調達 mismatches や予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になる、又は通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク（資金繰りリスク）及び市場の混乱等により市場において取引ができないため、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスク（市場流動性リスク）のことです。

当 JA では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置づけ、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

### ④ オペレーショナル・リスク管理

オペレーショナル・リスクとは、業務の過程、役職員の活動もしくは、システムが不適切であること又は外生的な事象による損失を被るリスクのことです。当 JA では、収益発生を意図し能動的な要因により発生する信用リスクや市場リスク及び流動性リスク以外のリスクで、受動的に発生する事務、システム、法務などについて事務処理や業務運営の過程において、損失を被るリスクと定義しています。事務リスク、システムリスクなどについて、事務手続きにかかる各種規程を理事会で定め、その有効性について内部監査や監事監査の対象とするとともに、事故・事務ミスが発生した場合は速やかに状況を把握して理事会に報告する体制を整備して、リスク発生後の対応及び改善が迅速・正確に反映ができるよう努めています。

### ⑤ 事務リスク管理

事務リスクとは、役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより金融機関が損失を被るリスクのことです。当 JA では、業務の多様化や事務量の増加に対応して、正確な事務処理を行うため事務マニュアルを整備するとともに、自主検査・自店検査を実施し事務リスクの削減に努めています。また、事故・事務ミスが発生した場合には、発生状況を把握し改善を図るとともに、内部監査により重点的なチェックを行い、再発防止策を実施しています。

## ◇法令遵守体制

[コンプライアンス基本方針]

利用者保護への社会的要請が高まっており、また最近の企業不祥事に対する社会の厳しい批判に鑑みれば、組合員・利用者からの信頼を得るためには、法令等を遵守し、透明性の高い経営を行うことがますます重要になっています。

このため、コンプライアンス（法令遵守）を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、この徹底こそが不祥事を未然に防止し、ひいては組織の信頼性向上に繋がるとの観点にたち、コンプライアンスを重視した経営に取り組みます。

[コンプライアンス運営態勢]

コンプライアンス態勢全般にかかる検討・審議を行うため、代表理事組合長を委員長とする

コンプライアンス委員会を設置しています。

基本姿勢及び遵守すべき事項を記載した手引書「コンプライアンス・マニュアル」を策定し、研修会を行い全役職員に徹底しています。

毎年度、コンプライアンス・プログラムを策定し、実効ある推進に努めるとともに、統括部署を設置し、その進捗管理を行っています。

#### ◇金融 ADR 制度への対応

##### ①苦情処理措置の内容

当 JA では、苦情処理措置として、業務運用体制・内部規則等を整備のうえ、その内容をホームページ・チラシ等で公表するとともに、JA バンク相談所や JA 共済連とも連携し、迅速かつ適切な対応に努め、苦情等の解決を図ります。

当 JA の苦情等受付窓口

本所 : 088-854-0322

戸波支所 : 088-855-0231

新居支所 : 088-856-1121

受付時間 : 午前 9 時～午後 5 時 (土日・祝祭日及び 12 月 29 日～1 月 3 日を除く)

##### ②紛争解決措置の内容

当 JA では、紛争解決措置として、次の外部機関を利用しています。

###### ・信用事業

愛媛弁護士会 紛争解決センター (電話 : 089-941-6279)

岡山弁護士会 岡山仲裁センター

①の窓口または JA バンク相談所 (電話 : 03-6837-1359)

にお申し出ください。なお、愛媛弁護士会については、直接紛争解決をお申し立ていただくことも可能です

###### ・共済事業

(一社) 日本共済協会 共済相談所 (電話 : 03-5368-5757)

(一財) 自賠償保険・共済紛争処理機構 (電話 : 0120-159-700)

(公財) 日弁連交通事故相談センター (電話 : 0570-078325)

(公財) 交通事故紛争処理センター (電話 : 東京本部 03-3346-1756)

日本弁護士連合会 弁護士保険 ADR

(<https://www.nichibenren.or.jp/activity/resolution/lac.html>)

最寄りの連絡先については、上記または①の窓口にお問い合わせ下さい。

#### ◇内部監査体制

当 JA では、内部監査部門を被監査部門から独立して設置し、経営全般にわたる管理及び各部門の業務の遂行状況を、内部管理態勢の適切性と有効性の観点から検証・評価し、改善事項の勧告などを通じて業務運営の適切性の維持・改善に努めています。

また、内部監査は、JA の本所・支所のすべてを対象とし、中期及び年度の内部監査計画に基づき実施しています。監査結果は代表理事組合長及び監事に報告したのち被監査部門に通知され、定期的に被監査部門の改善取り組み状況をフォローアップしています。また、監査結果の概要を

定期的に理事会に報告することとしていますが、特に重要な事項については、直ちに理事会、代表理事組合長、監事に報告し、速やかに適切な措置を講じています。

## 8. 自己資本の状況

### ◇自己資本比率の状況

当 JA では、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保に努めるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、平成 30 年 3 月末における自己資本比率は、22.23% となりました。

### ◇経営の健全性の確保と自己資本の充実

当 JA の自己資本は、組合員の普通出資によっています。

#### ○ 普通出資による資本調達額

項目	内容
発行主体	土佐市農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目に算入した額	473 百万円（前年度 478 百万円）

当 JA は、「自己資本比率算出要領」を制定し、適正なプロセスにより正確な自己資本比率を算出して、当 JA が抱える信用リスクやオペレーショナル・リスクの管理及びこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持を図るとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実に努めています。

また、平成 19 年度から、信用リスク、オペレーショナル・リスク、金利リスクなどの各種リスクを個別の方法で質的または量的に評価し、リスクを総体的に捉え、自己資本と比較・対照し、自己資本充実度を評価することにより、経営の健全性維持・強化を図っております。

## 9. 主な事業の内容

### (1) 主な事業の内容

#### [信用事業]

信用事業は、貯金、貸出、為替など、いわゆる金融業務といわれる内容の業務を組合員・顧客に対し安定的・持続的に行っています。

JA バンク会員（JA・信連・農林中金）は総合力を結集し、全体として実質的に一つの金融機関として機能するような運営システムを確立し、JA バンク（農協系統金融）として一体的に取り組んでいます。

#### ① 貯金業務

組合員はもちろん地域住民のみなさまや事業主のみなさま、農業団体、地方公共団体等からもお気軽にご利用いただけるよう、各種貯金を取り揃えています。

貯金の種類					
総合口座	普通貯金	定期貯金	期日指定定期貯金	積立型貯金	定期積金
	期日指定定期貯金		大口定期貯金		
	大口定期貯金		スーパー定期	積立定期貯金	
	スーパー定期		変動金利定期貯金		
	変動金利定期貯金	据置定期貯金	普通貯金		
	据置定期貯金	財形貯金	一般財形貯金	貯蓄貯金	
	貯蓄貯金		財形年金貯金	通知貯金	
	定期積金		財形住宅貯金	納税準備貯金	
	当座貯金			別段貯金	

## ② 貸付業務

組合員への貸付をはじめ、地域住民の皆様の暮らしや、農業者・事業者の皆様の事業に必要な資金を貸付し、地元金融機関として地域農業・地域社会の発展にお応えできるよう、幅広い融資を心掛け、様々な資金をご用意しています。

また、地方公共団体、農業関連産業などへも貸出を通じ、地域経済の質的向上、発展に努めています。さらに、日本政策金融公庫の融資の申し込みのお取次ぎもしています。

### 【貸付金の種類】

i) 手形貸付金 (約束手形)

ii) 証書貸付金

JA 統一ローン	JA バンクローン	その他
JA フリーローン (一般型 A)	住宅ローン (新築・購入コース)	一般証書
マイカーローン (一般型 A) (リピーター型)		JA 賃貸住宅資金
JA マイカーローン 「アシスト」「フレッシュマン」	住宅ローン(借換コース)	農業改良資金(転貸)
JA 教育ローン (一般型 A)	アパートローン	就農支援資金(転貸)
JA 住宅ローン (一般型) (100%応援型)	リフォームローン	農業近代化資金
JA 住宅ローン (借換応援型) (200%借換応援型)	マイカーローン	農業経営負担軽減支援資金
JA リフォームローン (I型 A) (II型 A)	フリーローン (I型)	農業経営改善促進資金
JA 農業ジャンプアップ資金	フリーローン (II型らくらくタイプ)	

iii) 当座貸越

JA 統一ローン	JA バンクローン	その他
JA カードローン (約定返済型・一般型 A)	カードローン	一般当座貸越
JA カードローン II		
JA ワイドカードローン		
JA 営農ローン		

③ 為替業務

全国の農協・信連・農林中金の店舗をはじめ、全国の銀行や信用金庫などの各店舗と為替網で結び、当組合の窓口を通して全国のどこの金融機関へでも送金や手形・小切手等の取立が安全・確実・迅速にできる内国為替を取扱っています。

④ その他の業務及びサービス

当 JA では、オンラインシステムを利用して、年金をはじめ各種自動受取、各種自動支払や給与振込サービス、口座振替サービスなどの取扱いや ATM の時間外手数料を無料にする等のサービスに努めています。

また、全国の農協での貯金の出し入れや、銀行、信用金庫、コンビニエンス・ストアなどでも現金引き出しのできるキャッシュサービスなど、いろいろなサービス・整備強化と年金相談をはじめ各種相談機能の充実に努めています。

○ JA ネットバンク

パソコン・携帯電話からもお取引できます。

・残高照会

事前にお申込みいただいたご利用口座の残高をご照会いただけます。

・入出金明細照会

事前にお申込みいただいたご利用口座の入出金明細をご照会いただけます。

・入出金明細のダウンロード

ご照会いただいた入出金明細については、資産管理ソフトにお取り込みいただき皆様の日々の資金管理の基礎データとしてご利用いただけます。

・振込

事前にお申込みいただいたご利用口座から、当 JA を含む全国の JA 及び他行への振込・振替がご利用いただけます。

・マルチペイメントネットワークサービス

税金・携帯電話料金等の各種料金の払込みサービスを取扱っています。

○ 融資サービス

マイホームの新築、購入、リフォームまたは現在お借入れされている住宅ローンの借換えをお考えの方を対象に 5 月に住宅ローン相談会を開催するなど、住宅ローンを中心に個人のライフステージに応じた各種ローンを提供し、積極的なローンサービスに努めています。

○ 年金サービス

年金に関する相談に対応するため、無料年金相談会の開催や年金友の会活動による会員親睦のお手伝いを行っています。

○ JAカード

組合員・利用者の皆様に、より一層の安心・便利をご提供するため、ICチップを搭載したカードの発行をしています。

JA独自の特典を備えた「JAならでは」のクレジットカードです。国内・海外のショッピング、お食事などにご利用いただけます。

**[共済事業]**

JA共済は、相互扶助「助け合い」を基本理念とし、生命と損害の両分野の保障を提供しています。組合員、地域の皆さまが安心して暮らせるよう、死亡、病気、ケガ、老後などの「ひと」の人生に関わる保障。火災はもちろん、地震や台風などさまざまな自然災害に備える「いえ」の保障。そして現代社会ではなくてはならない「くるま」の事故に備える保障。この、「ひと・いえ・くるまの総合保障」を通じて、皆さまの目的やライフプランに応じた保障を提供し、暮らしのパートナーとして“安心”をお届けしています。

「ひと」の保障

長期共済	終身共済	一生涯にわたって万一のときを保障するプランです。ニーズに合わせて、特約を付加することにより保障内容を自由に設計することもできます。
	一時払終身共済	まとまった資金を活用して加入する終身共済です。一生涯にわたる万一のときを保障するとともに、相続対策ニーズにも応えるプランです。
	引受緩和型終身共済	健康上の不安がある方や高齢者でも簡単な手続きでご加入しやすい終身保障です。一生涯にわたって万一のときを保障します。
	医療共済	病気やケガによる入院・手術を手厚く保障するプランです。ニーズに合わせて保障期間や共済掛金払込期間を選べるほか、万一保障や先進医療保障を加えたり、がん・三大疾病保障を充実させることもできます。
	引受緩和型医療共済	健康に不安のある方も簡単な告知でご加入しやすい医療保障の仕組みです。病気やケガによる入院・手術を一生涯保障します。全額自己負担となる先進医療を受けたときにも備えられるので安心です。
	がん共済	一生涯にわたってがんによる入院・手術を保障するプランです。がん診断時や再発・長期治療のときは一時金をお支払いします。ニーズに合わせて、先進医療保障を加えたり、入院・手術等の保障を充実させることもできます。
	介護共済	所定の要介護状態となったときの資金準備のためのプランです。公的介護制度と連動しており、介護の不安をわかりやすく保障します。
	一時払介護共済	まとまった資金を活用して加入する介護共済です。公的介護制度に連動しており、介護の不安をわかりやすく保障します。
	生活障害共済(一時金型)	身体障害者手帳制度(公的制度)に連動したわかりやすい保障で、病気やケガにより身体に障害が残るときに不足する生活費や治療費にまとまったお金で備えるための共済です。
	生活障害共済(定期年金型)	身体障害者手帳制度(公的制度)に連動したわかりやすい保障で、病気やケガにより身体に障害が残るときに不足する生活費や治療費に継続的に備えるための共済です。
予定利率変動型年金共済	老後の生活資金準備のためのプランです。医師の診査なしの簡単な手続きで加入できます。また最低保証予定利率も設定されているので安心です。	

	養老生命共済	一定期間の万一のときの保障とともに、資金形成ニーズにも応えるプランです。
	一時払養老生命共済	まとまった資金を活用して加入する養老生命共済です。医師の診査なしの簡単な手続きで加入できます。
	こども共済	お子さまの将来の入学や結婚・独立資金準備のためのプランです。ご契約者さまが万一のときは、満期まで毎年養育年金をお支払するプランもあります。
	定期生命共済	一定期間の万一のときを保障するプランです。手軽な共済掛金で加入できます。法人の経営者などの万一保障と退職金などの資金形成ニーズに応えるプランもあります。
	みどり国民年金基金	農業従事者（国民年金・第1号被保険者）におすすめする公的年金制度です。
短期共済	傷害共済	日常のさまざまな災害による万一のときやケガを保障します。
	賠償責任共済	日常生活・業務中に生じた損害賠償責任事故を保障します。

※「長期共済」は共済期間が5年以上の契約、「短期共済」は共済期間が5年未満の契約です。

#### 「いえ」の保障

長期共済	建物更生共済	火災はもちろん、地震や台風などの自然災害も幅広く保障します。また、満期共済金は、建物の新築・増改築や家財の買替資金としてご活用いただけます。
短期共済	火災共済	住まいの火災や落雷などの損害を保障します。

※「長期共済」は共済期間が5年以上の契約、「短期共済」は共済期間が5年未満の契約です。

#### 「くるま」の保障

短期共済	自動車共済	相手方への対人・対物賠償保障をはじめ、ご自身・ご家族のための傷害保障、車両保障など、万一の自動車事故を幅広く保障します。
	自賠責共済	自動車・バイク（二輪自動車・原動機付自転車）には法律で加入が義務づけられています。人身事故の被害者への賠償責任を保障します。

#### [販売事業]

農家組合員が生産した農産物を集約し、共同出荷販売等の業務を行っています。

主な出荷物 米・施設野菜・果樹・花卉・露地野菜・畜産等

① 市場視察

市場との情報交換により、有利販売に取り組んでいます。

② 消費宣伝

取引先と連携した卸売市場、量販店での展示商談や各種イベントに参加しています。

③ 水田農業

米穀の需給環境を維持し、主食用米と非主食用米等のバランスの良い生産を推進していきま

す。

④ 野菜価格安定制度

品目により野菜価格安定制度に加入し、対象野菜の平均販売価格（概算値）を下回った時は、生産者に補給金が支給されます。

⑤ エコシステム栽培・特別栽培の対象品目については、園芸連・市場・量販店と連携し、差別化販売を行っています。

### [営農指導事業]

営農指導課では農業振興等に関して行政や関係機関と連携し、各事業の導入・推進を図るとともに、生産部会による視察研修や現地検討会等を開催し、栽培技術の向上、農薬の適正使用、環境保全型農業の推進など安全・安心な農産物の生産を行っています。また、次代を担う地域の後継者・担い手の確保に向け、青壮年部活動や認定農業者の育成を図っています。

① 農業振興

土佐市農業再生協議会や土佐市担い手育成総合支援協議会と連携し、担い手の育成や水田農業の振興に取り組んでいます。

② 環境保全型農業の推進

土壌分析結果に基づいた適正施肥と土作りに取り組んでいます。また、農薬の安全使用と生産履歴記帳の実施を行い、エコシステム栽培や特別栽培による安全・安心な農産物の生産に取り組んでいます。

③ 生産部会活動

本所園芸部を中心に各品目部会、園芸連、高知県農業振興センターと連携し、消費宣伝活動や視察研修、現地検討会による栽培技術の向上を図るとともに、試験栽培や有望品種の検索等に取り組んでいます。

④ 青壮年部活動

勉強会の開催による栽培技術の向上や、環境美化活動として古ビニール回収を行っています。また、ソフトボール大会や駅伝大会などによる親睦と、仲間づくりを行っています。

## (2) 系統セーフティネット（貯金者保護の取り組み）

当 JA の貯金は、JA バンク独自の制度である「破綻未然防止システム」と公的制度である「貯金保険制度（農水産業協同組合貯金保険制度）」との 2 重のセーフティネットで守られています。

### ◇「JA バンクシステム」の仕組み

JA バンクは、全国の JA・信連・農林中央金庫（JA バンク会員）で構成するグループの名称です。組合員・利用者の皆さまに、便利で安心な金融機関としてご利用いただけるよう、JA バンク会員の総力を結集し、実質的にひとつの金融機関として活動する「JA バンクシステム」を運営しています。

「JA バンクシステム」は「破綻未然防止システム」と「一体的事業運営」を 2 つの柱としています。

### ◇「破綻未然防止システム」の機能

「破綻未然防止システム」は、JA バンク全体としての信頼性を確保するための仕組みです。再編強化法（農林中央金庫及び特定農水産業協同組合等による信用事業の再編及び強化に関する法



律)に基づき、「JA バンク基本方針」を定め、JA の経営上の問題点の早期発見・早期改善のため、国の基準よりもさらに厳しい JA バンク独自の自主ルール基準（達成すべき自己資本比率の水準、体制整備など）を設定しています。

また、JA バンク全体で個々の JA の経営状況をチェックすることにより適切な経営改指導を行います。

#### ◇「一体的な事業運営」の実施

良質で高度な金融サービスを提供するため、JA バンクとして商品開発力・提案力の強化、共同運営システムの利用、全国統一の JA バンクブランドの確立等の一体的な事業推進の取り組みをしています。

#### ◇貯金保険制度

貯金保険制度とは、農水産業協同組合が貯金などの払い戻しができなくなった場合などに、貯金者を保護し、また資金決済の確保を図ることによって、信用秩序の維持に資することを目的とする制度で、銀行、信金、信組、労金などが加入する「預金保険制度」と同様な制度です。

【経営資料】

I 決算の状況

1. 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	28年度 (平成29年3月31日)	29年度 (平成30年3月31日)
( 資 産 の 部 )		
1 信用事業資産	36,035,919	34,562,876
(1) 現金	266,814	256,979
(2) 預金	31,866,089	30,722,154
系統預金	31,851,254	30,697,223
系統外預金	14,835	24,931
(3) 貸出金	3,964,223	3,642,684
(4) その他の信用事業資産	28,325	27,319
未収収益	13,320	11,791
その他の資産	15,004	15,528
(5) 貸倒引当金	△89,532	△86,262
2 共済事業資産	66,340	78,094
(1) 共済貸付金	64,494	73,280
(2) 共済未収利息	612	688
(3) その他の共済事業資産	1,240	4,147
(4) 貸倒引当金	△7	△21
3 経済事業資産	1,574,940	1,548,546
(1) 経済事業未収金	611,627	648,105
(2) 経済受託債権	351,128	363,913
(3) 棚卸資産	191,448	204,015
購買品	189,595	201,932
販売品	1,153	1,205
その他の棚卸資産	699	877
(4) その他の経済事業資産	551,451	472,570
(5) 貸倒引当金	△130,715	△140,058
4 雑資産	138,309	194,096
雑資産	138,316	194,130
貸倒引当金	△6	△34
5 固定資産	1,542,888	1,511,874
(1) 有形固定資産	1,541,961	1,511,015
建物	1,777,889	1,777,891
機械・装置	517,780	458,202
土地	712,654	738,449
その他有形固定資産	251,598	286,100
減価償却累計額	△1,717,961	△1,749,628
(2) 無形固定資産	926	859
6 外部出資	1,685,618	1,646,731
(1) 外部出資	1,686,946	1,647,354
系統出資	1,612,756	1,572,329
系統外出資	74,190	75,024
(2) 外部出資等損失引当金	△1,327	△622
7 繰延税金資産	41,030	44,819
資産の部合計	41,085,047	39,587,040

(単位：千円)

科 目	28年度	29年度
	(平成29年3月31日)	(平成30年3月31日)
( 負 債 の 部 )		
1 信用事業負債	36,035,277	34,515,557
(1) 貯金	35,943,623	34,462,643
(2) 借入金	7,498	5,867
(3) その他の信用事業負債	84,156	47,047
未払費用	42,221	30,056
その他の負債	41,934	16,990
2 共済事業負債	309,943	304,704
(1) 共済借入金	64,494	73,280
(2) 共済資金	145,559	138,202
(3) 共済未払利息	612	686
(4) 未経過共済付加収入	91,070	87,540
(5) 共済未払費用	7,967	4,674
(6) その他共済事業負債	238	320
3 経済事業負債	1,302,577	1,288,942
(1) 経済事業未払金	281,982	280,954
(2) 経済受託債務	609,428	539,309
(3) その他の経済事業負債	411,166	468,678
4 雑負債	166,587	161,065
(1) 未払法人税等	11,242	21,279
(2) その他の負債	155,345	139,786
5 諸引当金	78,791	89,992
(1) 賞与引当金	33,418	33,807
(2) 退職給付引当金	15,449	21,953
(3) 役員退職慰労引当金	29,923	34,231
負債の部合計	37,893,176	36,360,261
( 純 資 産 の 部 )		
1 組合員資本	3,189,172	3,223,938
(1) 出資金	478,910	473,380
(うち後配出資金)	(-)	(-)
(2) 資本準備金	166	166
(3) 再評価積立金	5,355	5,355
(4) 利益剰余金	2,711,355	2,747,761
利益準備金	764,525	776,525
肥料協同購入積立金	859	859
営農振興積立金	89,700	101,700
経営安定対策積立金	6,000	12,000
特別積立金	1,746,359	1,758,359
当期末処分剰余金	103,911	98,317
(うち当期剰余金)	(56,942)	(45,825)
(5) 処分未済持分	△6,615	△2,725
2 評価・換算差額等	2,698	2,839
(1) その他有価証券評価差額金	2,698	2,839
純資産の部合計	3,191,871	3,226,778
負債及び純資産の部合計	41,085,047	39,587,040

## 2. 損益計算書

(単位：千円)

科 目	28年度	29年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1 事業総利益	946,797	896,138
(1) 信用事業収益	323,094	304,961
資金運用収益	300,556	287,113
(うち預金利息)	(175,970)	(171,094)
(うち貸出金利息)	(83,860)	(76,971)
(うちその他受入利息)	(40,725)	(39,047)
役務取引等収益	12,017	12,145
その他経常収益	10,520	5,702
(2) 信用事業費用	61,010	48,697
資金調達費用	39,389	26,946
(うち貯金利息)	(38,585)	(26,324)
(うち給付補填備金繰入)	(538)	(559)
(うち借入金利息)	(12)	(16)
(うちその他支払利息)	(252)	(46)
役務取引等費用	2,624	2,622
その他経常費用	18,996	19,128
(うち貸倒引当金戻入益)	(△12,295)	(△3,270)
(うち貸出金償却)	(1,861)	(—)
信用事業総利益	262,083	256,263
(3) 共済事業収益	319,113	304,383
共済付加収入	292,259	279,200
共済貸付金利息	1,517	1,547
その他の収益	25,336	23,635
(4) 共済事業費用	27,796	21,733
共済借入金利息	1,517	1,547
共済推進費	20,790	15,287
共済保全費	1,116	893
その他の費用	4,371	4,005
(うち貸倒引当金繰入額)	(1)	(14)
共済事業総利益	291,317	282,650
(5) 購買事業収益	1,783,943	1,751,361
購買品供給高	1,732,087	1,696,771
修理サービス料	4,294	4,235
その他の収益	47,561	50,353
(6) 購買事業費用	1,549,089	1,552,592
購買品供給原価	1,480,067	1,455,642
購買品供給費	25,712	25,905
修理サービス費	423	314
その他の費用	42,885	70,729
(うち貸倒引当金繰入額)	(3,031)	(33,501)
購買事業総利益	234,853	198,769
(7) 販売事業収益	398,256	390,277
販売品販売高	83,594	84,725
販売手数料	113,030	110,682
その他の収益	201,631	194,869
(8) 販売事業費用	233,644	230,282
販売品販売原価	66,492	67,557
販売費	153,078	158,341
その他の費用	14,073	4,384
(うち貸倒引当金戻入益)	(△1)	(△10,863)
販売事業総利益	164,611	159,994
(9) 利用事業収益	13,317	14,125
(10) 利用事業費用	8,845	5,531
(うち貸倒引当金戻入益)	(△1,089)	(△1,928)
利用事業総利益	4,471	8,594
(11) 直販事業収益	2,422	2,271
(12) 直販事業費用	322	327
直販事業総利益	2,100	1,943

科 目	28年度	29年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
(13) その他事業収益	672	781
(14) その他事業支出	—	—
その他事業総利益	672	781
(15) 指導事業収入	734	841
(16) 指導事業支出	14,048	13,699
指導事業収支差額	△13,314	△12,858
2 事業管理費	881,985	858,284
(1) 人件費	630,608	632,098
(2) 業務費	69,552	61,703
(3) 諸税負担金	32,895	36,481
(4) 施設費	146,790	125,832
(5) その他事業管理費	2,140	2,168
事業利益	64,812	37,854
3 事業外収益	37,762	40,991
(1) 受取雑利息	7,279	12,602
(2) 受取出資配当金	24,332	24,657
(3) 賃貸料	1,682	2,197
(4) 償却債権取立益	390	385
(5) 雑収入	4,077	1,150
4 事業外費用	2,724	6,056
(1) 寄付金	567	383
(2) 雑損失	2,157	5,673
(うち外部出資損失引当金繰入額)	(76)	(△704)
(うちその他貸倒引当金戻入益)	(△0)	(27)
経常利益	99,850	72,789
5 特別利益	86,640	57,421
(1) 固定資産処分益	534	—
(2) 一般補助金	32,739	57,421
(3) 圧縮特別勘定戻入	53,367	—
6 特別損失	123,591	61,923
(1) 固定資産処分損	6,827	4,231
(2) 固定資産圧縮損	85,904	57,421
(3) 減損損失	21,559	—
(5) その他の特別損失	9,300	270
臨時損失	9,300	270
税引前当期利益	62,899	68,287
7 法人税・住民税及び事業税	16,205	26,305
法人税・住民税及び事業税	16,205	26,305
8 法人税等調整額	△10,248	△3,843
法人税等合計	5,957	22,462
当期剰余金	56,942	45,825
当期首繰越剰余金	46,969	52,492
当期末処分剰余金	103,911	98,317

### 3. キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	28年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		29年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
1 事業活動によるキャッシュ・フロー				
税引前当期利益	62,899		68,287	
減価償却費	80,775		66,677	
減損損失	21,559		—	
圧縮にかかる補助金収入	△32,739		△57,421	
固定資産圧縮損	85,904		57,421	
特別勘定の増加額	△53,367		—	
貸倒引当金の増加額 (△は減少)	△10,354		17,479	
貸出金償却の増減額	18,612		—	
賞与引当金の増加額 (△は減少)	861		389	
退職給付引当金の増加額 (△は減少)	△2,089		6,504	
役員退任給与引当金の増加額 (△は減少)	1,253		4,307	
その他引当金等の増加額 (△は減少)	76		△704	
信用事業資金運用収益	△300,556		△287,113	
信用事業資金調達費用	39,389		26,946	
共済貸付金利息	△1,517		△1,547	
共済借入金利息	1,517		1,547	
受取雑利息及び受取出資配当金	△31,612		△37,259	
固定資産売却損益 (△は益)	13,711		△123,389	
固定資産除去損	△7,418		127,621	
(信用事業活動による資産及び負債の増減)	340,277		△216,403	
貸出金の純増 (△) 減	217,582		295,039	
定期性預金の純増 (△) 減	△100,000		970,000	
貯金の純増減 (△)	226,143		△1,480,979	
信用事業借入金の純増減 (△)	△1,865		△1,631	
その他の信用事業資産の純増 (△) 減	△1,964		△523	
その他の信用事業負債の純増減 (△)	380		1,692	
(共済事業活動による資産及び負債の増減)	△23,614		△17,005	
共済貸付金の純増 (△) 減	△6,183		△8,785	
共済借入金の純増減 (△)	6,183		8,785	
共済資金の純増減 (△)	△21,515		△7,356	
未経過共済付加収入の純増減 (△)	△2,219		△3,530	
その他の共済事業資産の純増 (△) 減	14		△2,906	
その他の共済事業負債の純増減 (△)	105		△3,211	
(経済事業活動による資産及び負債の増減)	△106,890		△7,950	
受取手形及び経済事業未収金の純増 (△) 減	△20,849		△47,843	
経済受託債権の純増 (△) 減	43,571		△12,784	
棚卸資産の純増 (△) 減	△14,656		△12,567	
支払手形及び経済事業未払金の純増減 (△)	6,623		△1,027	
経済受託債務の純増減 (△)	△128,427		△70,119	
その他の経済事業資産の純増 (△) 減	△14,805		78,881	
その他の経済事業負債の純増減 (△)	21,652		57,511	
(その他の資産及び負債の増減)	276,345		178,019	
信用事業資金運用による収入	303,371		288,534	
信用事業資金調達による支出	△43,567		△39,139	
共済貸付金利息による収入	1,566		1,471	
共済借入金利息による支出	△1,566		△1,473	
その他の資産の純増 (△) 減	13,716		△55,814	
その他の負債の純増減 (△)	2,825		△15,559	
未払消費税等の純増減 (△)	—		—	
小 計	486,116		△63,339	
雑利息及び出資配当金の受取額	31,612		37,259	
雑利息の支払額	—		—	
法人税等の支払額	△33,093		△16,268	
事業活動によるキャッシュ・フロー	371,542		△172,602	

科 目	28年度	29年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
2 投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△255,902	△227,663
固定資産の売却による収入	57,846	130,347
外部出資による支出	△80	△640
外部出資の売却等による収入	40,967	40,426
補助金の受入による収入	32,739	57,421
投資活動によるキャッシュ・フロー	△124,429	△108
3 財務活動によるキャッシュ・フロー		
出資の増額による収入	10,980	16,155
出資の払戻しによる支出	△17,275	△21,685
持分の取得による支出	△2,490	△2,725
持分の譲渡による収入	3,010	6,615
出資配当金の支払額	△9,533	△9,418
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,308	△11,058
4 現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
5 現金及び現金同等物の増加額（又は減少額）	231,804	△183,769
6 現金及び現金同等物の期首残高	610,599	842,403
7 現金及び現金同等物の期末残高	842,403	658,634

## 4. 注記表（平成 28 年度）

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準及び評価方法

その他有価証券

- i) 時価のあるもの：期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全額純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
- ii) 時価のないもの：移動平均法による原価法

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ①購買品（みのり館店舗（営農用肥料、営農用農薬以外）、新居支所の食品と生活用品の小物類）  
売価還元法による原価法で評価（収益性の低下による簿価切下げの方法）
- ②購買品（①以外）  
最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）
- ③販売品  
最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）
- ④その他の棚卸資産  
最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産

定率法（ただし、平成 10 年 4 月 1 日以降に取得した建物（建物付属設備を除く）は定額法）を採用しています。また、平成 28 年 4 月 1 日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しています。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。

##### ②無形固定資産

定額法を採用しています。なお、自社利用ソフトウェアについては、当組合における利用可能期間（5 年）に基づく定額法により償却しています。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ①貸倒引当金

貸倒引当金は、あらかじめ定めている資産査定要領、経理規程及び資産の償却・引当基準に則り、次のとおり計上しています。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しています。

また、現在は経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。

上記以外の債権については、貸倒実績率で算出した金額と税法繰入限度額のいずれか多い金額を



計上しています。

この基準に基づき、当事業年度は貸倒実績率で算定した金額に基づき計上しています。

すべての債権は、資産査定要領に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した内部監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。

#### ②賞与引当金

職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度負担分を計上しています。

#### ③退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末に発生していると認められる額を計上しています。なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

#### ④役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支給に備えて、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しています。

#### ⑤外部出資等損失引当金

当組合の外部出資先への出資に係る損失に備えるため、出資形態が株式のものについては有価証券の評価と同様の方法により、株式以外のものについては貸出債権と同様の方法により、必要と認められる額を計上しています。

### (5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、会計基準適用初年度開始前に取引を行ったものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

### (6) 消費税及び地方消費税の会計処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等はその他資産に計上し、5年間で均等償却を行っています。

### (7) 計算書類に記載した金額の端数処理の方法

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については「0」で表示しています。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

### (1) 固定資産の減価償却方法の変更

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しています。

この結果、当事業年度の事業利益、経常利益及び税引前当期利益はそれぞれ319千円増加しています。

## 3. 貸借対照表に関する注記

(1) 固定資産に係る圧縮記帳額

国庫補助金等により取得した固定資産について、税法で定める圧縮記帳により固定資産の帳簿価額を直接減額する方法を採用しており、平成12年4月1日以降取得した有形固定資産について、取得価額から控除している圧縮記帳額は累計で635,334千円であり、その内訳は次の通りです。

建物 327,901千円 機械装置 295,202千円 その他の有形固定資産 12,230千円

なお、平成12年3月31日以前に取得した有形固定資産については、被合併組合から圧縮後の帳簿価格で引き継ぎをしています。

(2) 担保に供している資産

高知県信用農業協同組合連合会との当座借越契約の担保として定期預金を1,500,000千円供しておりますが、これに対応する債務はありません。また、為替取引保証金の担保として定期預金を500,000千円供しています。

(3) 貸出金のうちリスク管理債権の合計額及びその内訳

貸出金のうち、破綻先債権額は9,088千円、延滞債権額は172,555千円です。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金です。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金です。

貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は25,388千円です。

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものです。

破綻先債権額、延滞債権額及び3カ月以上延滞債権額の合計額は207,032千円です。

なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

(4) 役員との間の取引による役員に対する金銭債権及び金銭債務

該当ありません。

4. 損益計算書に関する注記

(1) 減損損失に関する注記

①資産をグループ化した方法の概要及び減損損失を認識した資産又は資産グループ概要

当組合では、投資の意思決定を行う単位としてグルーピングを実施した結果、営業店舗については支所ごとに、また、業務外固定資産（遊休資産と賃貸固定資産）について、各固定資産をグルーピングの最小単位としています。

本所、みのり館、高岡集出荷場、戸波集出荷場及び宇佐集出荷場については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないため、共用資産と認識しております。

減損損失を計上した資産

場所	用途	種類
新居給油所	給油所	土地建物等

## ②減損損失の認識に至った経緯

新居給油所については、当該店舗の営業収支が2期連続赤字であると同時に、短期的に業績の回復が見込まれないことから、帳簿価格を回収可能額までに減額し、当期減少額を減損損失として認識しました。

## ③減損損失の金額について、特別損失に計上した金額と主な固定資産の種類毎の減損損失の内訳

新居給油所 21,559千円（建物17,577千円、土地2,699千円、機械装置377千円、工具・器具・備品905千円）

## ④回収可能額の算定方法

新居給油所の回収可能価格は正味売却価格を採用しており、その時価は公示価格に基づき算定されております。

## 5. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### ①金融商品に対する取組方針

当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域内の企業や団体などへの貸付け、残った余裕金を高知県信用農業協同組合連合会へ預けて運用を行っています。

#### ②金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として高知県信用農業協同組合連合会への預け金及び当組合管内の組合員等に対する貸出金、事業債権である経済未収金であり、貸出金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

借入金は、主として農家組合員に対する制度融資の原資として高知県から借り入れたものです。

#### ③金融商品に係るリスク管理体制

##### i) 信用リスクの管理

当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本所に審査課を設置し各支所との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判断を行っています。貸出取引における資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

##### ii) 市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

#### (市場リスクに係る定量的情報)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、貯金及び借入金です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用し

ています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当該事業年度末現在、指標となる金利が0.1%低下した場合には、経済価値が3,450千円減少するものと考えられ、反対に、金利が0.1%上昇した場合には、8,766千円増加するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

なお、経済価値変動額の計算において、分割実行案件にかかる未実行金額についても含めて計算しています。

### iii) 資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

#### ④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準じる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

### ①金融商品の貸借対照表計上額及び時価等

当該年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めず③に記載しています。

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
預金	31,866,089	31,858,108	△7,981
貸出金	3,964,223		
貸倒引当金（注1）	△89,221		
貸倒引当金控除後	3,875,001	4,144,180	269,178
経済事業未収金	611,627		
貸倒引当金（注2）	△130,715		
貸倒引当金控除後	480,912	485,565	4,653
資産計	36,222,003	36,487,854	265,850
貯金	35,943,623	35,956,058	12,434
借入金	7,498	7,498	—
その他の信用事業負債	84,156	84,156	—
経済事業未払金	281,982	281,982	—
負債計	36,317,259	36,329,694	12,434

(注1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

(注2) 経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

## ②金融商品の時価の算定方法

### 【資産】

#### i) 預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によつています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである円LIBOR・スワップレート（元本の保証された投資商品における利回りのこと）で割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

#### ii) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によつています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円LIBOR・スワップレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

#### iii) 経済事業未収金

経済事業未収金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によつています。それ以外のものについては、簿価から個別貸倒引当金を控除することによつて時価とみなしています。

### 【負債】

#### i) 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートである円LIBOR・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

#### ii) 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当組合の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によつています。

固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートである円LIBOR・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

#### iii) 経済事業未払金

経済事業未払金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、帳簿価格によつています。

③時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

(単位：千円)

		貸借対照表計上額
外部出資 (注 1)		1,680,836
外部出資等損失引当金 (注 2)		△1,327
外部出資 (引当金控除後)		1,679,508

(注 1) 外部出資のうち、市場価格のある上場株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難であると認められるため、時価開示の対象とはしていません。

(注 2) 外部出資に対する損失引当金を控除しています。

④金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金	31,866,089					
貸出金 (注 1, 2)	640,869	441,102	411,756	251,374	229,723	1,879,371
経済事業未収金	609,027					
合計	33,115,986	441,102	411,756	251,374	229,723	1,879,371

(注 1) 貸出金の内、当座貸越 174,844 千円については「1年以内」に含めています。また、期限のない劣後特約付ローンについては「5年超」に含めています。

(注 2) 貸出金の内、3カ月以上延滞が生じている債権・期限の利益を喪失した債権等 110,025 千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

(注 3) 経済事業未収金のうち、破綻先に対する債権 2,600 千円は償還の予定が見込まれないため含めていません。

⑤借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金 (注 1)	28,350,956	3,926,035	3,022,801	30,505	551,599	61,723
借入金	1,631	1,631	1,144	789	789	1,514
合計	28,352,587	3,927,666	3,023,945	31,294	552,388	63,237

(注 1) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

6. 有価証券に関する注記

(1) 有価証券の時価及び評価差額に関する事項は次のとおりです。これらには、「外部出資」中の株式が含まれています。

①その他有価証券で時価があるもの

その他有価証券において、種類ごとの取得原価又は償却原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：千円)

種 類		取得原価	貸借対照表 計上額	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	外部出資	2,379	6,110	3,730

なお、上記の評価差額から繰延税金負債 1,031 千円を差し引いた額 2,698 千円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

## 7. 退職給付に関する注記

### (1) 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規定に基づき退職給付の一部にあてるため一般財団法人全国農林漁業団体共済会との契約に基づく農林漁業団体職員退職給付制度（特定退職金共済制度）及び全国共済農業協同組合連合会との契約に基づく確定給付企業年金制度を採用しています。

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

### (2) 退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	17,538 千円
退職給付費用	44,495 千円
退職給付の支払額	△10,338 千円
特定退職共済制度への拠出金	△28,161 千円
確定給付企業年金制度への拠出金	<u>△ 8,084 千円</u>
期末における退職給付引当金	15,449 千円

### (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

退職給付債務	641,264 千円
年金資産	△625,815 千円
特定退職金共済制度	△423,442 千円
確定給付企業年金制度	<u>△202,372 千円</u>
退職給付引当金	15,449 千円

### (4) 退職給付に関する損益

勤務費用	<u>44,495 千円</u>
------	------------------

### (5) 特例業務負担金の将来見込額

人件費には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体共済組合法等を廃止する等の法律附則第 57 条に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 8,070 千円含めて計上しています。

なお、同組合により示された平成 29 年 3 月現在における平成 44 年 3 月までの特例業務負担金の将来見込額は、139,966 千円となっています。

8. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金超過額	56,787 千円
賞与引当金	9,243 千円
退職給付引当金	4,273 千円
役員退職慰労引当金	8,276 千円
購買未払費用	10,266 千円
普通貯金（睡眠）	1,776 千円
貸出金償却	2,131 千円
減価償却超過額	5,550 千円
その他	<u>9,800 千円</u>
繰延税金資産小計	108,106 千円
評価性引当金	<u>△66,043 千円</u>
繰延税金資産合計（A）	42,062 千円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	<u>△1,031 千円</u>
繰延税金負債合計（B）	<u>△1,031 千円</u>
繰延税金資産の純額（A） + （B）	41,030 千円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率	27.66%
（調整）	
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.37%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.14%
住民税均等割等	0.97%
評価性引当金の増減	△19.72%
その他	△0.67%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	9.47%

（追加情報）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第 26 号 平成 28 年 3 月 28 日。以下「回収可能性適用指針」という。）を当期から適用しています。



9. その他の注記

(1) リース取引（貸手側）

① リース取引開始日が平成 20 年 3 月 31 日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース取引に関する会計基準適用初年度開始前のリース取引のうち、リース物件の所有権が借手に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引は下記の通りです。

i) リース物件の取得価格、減価償却累計額及び期末残高

(単位：千円)

	機械及び装置	合計
取得価格	58,668	58,668
減価償却累計額	52,311	52,311
期末残高	6,356	6,356

ii) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：千円)

1 年以内	756
1 年超	3,134
合計	3,891

iii) 受取リース料、減価償却費

(単位：千円)

受取リース料	764
減価償却費	3,369

## 4. 注記表（平成 29 年度）

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準及び評価方法

その他有価証券

i) 時価のあるもの：期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全額純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

ii) 時価のないもの：移動平均法による原価法

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

①購買品（みのり館店舗（営農用肥料、営農用農薬以外）、新居支所の食品と生活用品の小物類）  
売価還元法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

②購買品（①以外）

最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

③販売品

最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

④その他の棚卸資産

最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定率法（ただし、平成 10 年 4 月 1 日以降に取得した建物（建物付属設備を除く）は定額法）を採用しています。また、平成 28 年 4 月 1 日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しています。

②無形固定資産

定額法を採用しています。

#### (4) 引当金の計上基準

①貸倒引当金

貸倒引当金は、あらかじめ定めている資産査定要領、経理規程及び資産の償却・引当基準に則り、次のとおり計上しています。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しています。

また、現在は経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。

上記以外の債権については、貸倒実績率等に基づき算出した金額を計上しています。

すべての債権は、資産査定要領に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した内部監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。

②賞与引当金

職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当該事業年度負担分を計上しています。

### ③退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末に発生していると認められる額を計上しています。なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

### ④役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支給に備えて、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しています。

### ⑤外部出資等損失引当金

当組合の外部出資先への出資に係る損失に備えるため、出資形態が株式のものについては有価証券の評価と同様の方法により、株式以外のものについては貸出債権と同様の方法により、必要と認められる額を計上しています。

## (5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、会計基準適用初年度開始前に取引を行ったものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

## (6) 消費税及び地方消費税の会計処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は其他資産に計上し、年間で均等償却を行っています。

## (7) 計算書類に記載した金額の端数処理の方法

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については「0」で表示しています。

## 2. 貸借対照表に関する注記

### (1) 固定資産に係る圧縮記帳額

国庫補助金等により取得した固定資産について、税法で定める圧縮記帳により固定資産の帳簿価額を直接減額する方法を採用しており、平成12年4月1日以降取得した有形固定資産について、取得価額から控除している圧縮記帳額は累計で626,911千円であり、その内訳は次の通りです。

建物 327,901千円 機械装置 231,832千円 その他の有形固定資産 67,178千円

なお、平成12年3月31日以前に取得した有形固定資産については、被合併組合から圧縮後の帳簿価額で引き継ぎをしています。

### (2) 担保に供している資産

高知県信用農業協同組合連合会との当座借越契約の担保として定期預金を1,500,000千円供しておりますが、これに対応する債務はありません。

また、為替取引保証金の担保として定期預金を500,000千円供しています。

### (3) 役員との間の取引による役員に対する金銭債権及び金銭債務

該当ありません。

### (4) 貸出金のうちリスク管理債権の合計額及びその内訳

貸出金のうち、破綻先債権額は24,851千円、延滞債権額は174,843千円です。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規

定する事由が生じている貸出金です。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金です。

貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は21,427千円です。

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものです。

貸出金のうち、貸出条件緩和債権額はありません。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものです。

破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は221,122千円です。

なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

### 3. 金融商品に関する注記

#### (1) 金融商品の状況に関する事項

##### ①金融商品に対する取組方針

当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域内の企業や団体などへの貸付け、残った余裕金を高知県信用農業協同組合連合会へ預けて運用を行っています。

##### ②金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として高知県信用農業協同組合連合会への預け金及び当組合管内の組合員等に対する貸出金、事業債権である経済未収金であり、貸出金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

借入金は、主として農家組合員に対する制度融資の原資として高知県から借り入れたものです。

##### ③金融商品に係るリスク管理体制

###### i) 信用リスクの管理

当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本所に審査課を設置し各支所との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判断を行っています。貸出取引における資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

###### ii) 市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

#### (市場リスクに係る定量的情報)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、貯

金及び借入金です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当該事業年度末現在、指標となる金利が0.1%低下した場合には、経済価値が7,897千円減少するものと考えられ、反対に金利が0.1%上昇した場合には、15,808千円増加するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

なお、経済価値変動額の計算において、分割実行案件にかかる未実行金額についても含めて計算しています。

### iii) 資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

#### ④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準じる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

#### ①金融商品の貸借対照表計上額及び時価等

当該年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めず③に記載しています。

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
預金	30,722,154	30,716,698	△5,455
貸出金	3,642,684		
貸倒引当金（注1）	△86,262		
貸倒引当金控除後	3,556,422	3,787,264	230,841
経済事業未収金	648,105		
貸倒引当金（注2）	△140,058		
貸倒引当金控除後	508,047	515,546	7,499
外部出資（注3）	6,304	6,304	
資産計	34,792,928	35,025,814	232,885

貯金	34,462,643	34,475,991	13,348
借入金	5,867	5,867	—
その他の信用事業負債	47,047	47,047	—
経済事業未払金	280,954	280,954	—
負債計	34,796,512	34,809,860	13,348

(注1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

(注2) 経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

(注3) 外部出資は、系統外出資のうち市場価格のある上場株式です。

## ②金融商品の時価の算定方法

### 【資産】

#### i) 預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである円LIBOR・スワップレート（元本の保証された投資商品における利回りのこと）で割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

#### ii) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円LIBOR・スワップレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

#### iii) 経済事業未収金

経済事業未収金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。それ以外のものについては、簿価から個別貸倒引当金を控除することによって時価とみなしています。

#### iv) 外部出資

株式は取引所の価格によっています。

### 【負債】

#### i) 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートである円LIBOR・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

#### ii) 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当組合の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっています。

固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートである円LIBOR・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として

算定しています。

iii) 経済事業未払金

経済事業未払金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、帳簿価格によっています。

③時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

(単位：千円)

		貸借対照表計上額
外部出資 (注 1)		1,641,049
外部出資等損失引当金 (注 2)		△622
外部出資 (引当金控除後)		1,640,427

(注 1) 外部出資のうち、市場価格のある上場株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難であると認められるため、時価開示の対象とはしていません。

(注 2) 外部出資に対する損失引当金を控除しています。

④金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金	30,722,154					
貸出金 (注 1, 2)	631,266	430,953	263,268	248,992	210,623	1,762,840
経済事業未収金 (注 3)	642,195					
合計	31,995,616	430,953	263,268	248,992	210,623	1,762,840

(注 1) 貸出金の内、当座貸越 168,916 千円については「1年以内」に含めています。また、期限のない劣後特約付ローンについては「5年超」に含めています。

(注 2) 貸出金の内、3カ月以上延滞が生じている債権・期限の利益を喪失した債権等 94,740 千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

(注 3) 経済事業未収金のうち、破綻先に対する債権 5,909 千円は償還の予定が見込まれないため含めていません。

⑤借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金 (注 1)	25,007,804	2,939,810	5,792,702	518,034	132,438	71,853
借入金	1,631	1,144	789	789	789	725
合計	25,009,435	2,940,954	5,793,491	518,823	133,227	72,578

(注 1) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

4. 有価証券に関する注記

(1) 有価証券の時価及び評価差額に関する事項は次のとおりです。これらには、「外部出資」中の株式が含まれています。

①その他有価証券で時価があるもの

その他有価証券において、種類ごとの取得原価又は償却原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：千円)

種 類		貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	外部出資	6,304	2,379	3,925

なお、上記の評価差額から繰延税金負債 1,085 千円を差し引いた額 2,839 千円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

## 5. 退職給付に関する注記

### (1) 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため一般財団法人全国農林漁業団体共済会との契約に基づく農林漁業団体職員退職給付制度（特定退職金共済制度）及び全国共済農業協同組合連合会との契約に基づく確定給付企業年金制度を採用しています。

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

### (2) 退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	15,449 千円
退職給付費用	50,296 千円
退職給付の支払額	△4,904 千円
特定退職共済制度への拠出金	△30,814 千円
確定給付企業年金制度への拠出金	<u>△ 8,074 千円</u>
期末における退職給付引当金	21,953 千円

### (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

退職給付債務	672,136 千円
年金資産	△650,182 千円
特定退職金共済制度	△448,264 千円
確定給付企業年金制度	<u>△201,918 千円</u>
退職給付引当金	21,953 千円

### (4) 退職給付に関する損益

勤務費用	<u>50,296 千円</u> (うち出向職員負担金 435 千円)
------	-------------------------------------

### (5) 特例業務負担金の将来見込額

人件費（うち福利厚生費）には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体共済組合法等を廃止する等の法律附則第 57 条に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 8,179 千円含めて計上しています。

なお、同組合により示された平成 30 年 3 月現在における平成 44 年 3 月までの特例業務負担金の将来見込額は、132,187 千円となっています。



6. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金超過額	58,765 千円
賞与引当金	9,351 千円
役員退職慰労引当金	9,468 千円
購買未払費用	8,770 千円
退職給付引当金	6,072 千円
減価償却超過額	4,792 千円
普通貯金（睡眠）	3,662 千円
組織等貯金残高	2,818 千円
期末賞与	2,275 千円
貸出金償却	2,024 千円
その他	<u>7,409 千円</u>
繰延税金資産小計	115,411 千円
評価性引当金	<u>△69,505 千円</u>
繰延税金資産合計（A）	45,905 千円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	<u>△1,085 千円</u>
繰延税金負債合計（B）	<u>△1,085 千円</u>
繰延税金資産の純額（A） + （B）	44,819 千円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率	27.66%
（調整）	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.90%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.00%
住民税均等割等	△0.54%
評価性引当金の増減	5.07%
その他	<u>0.89%</u>
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.98%

7. その他の注記

(1) リース取引（貸手側）

① リース取引開始日が平成 20 年 3 月 31 日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース取引に関する会計基準適用初年度開始前のリース取引のうち、リース物件の所有権が借手に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引は下記の通りです。

i) リース物件の取得価格、減価償却累計額及び期末残高

(単位：千円)

	構築物	合計
取得価額	31,544	31,544
減価償却累計額	29,138	29,138
期末残高	2,406	2,406

ii) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：千円)

1 年以内	750
1 年超	2,384
合計	3,134

iii) 受取リース料、減価償却費、受取利息相当額

(単位：千円)

受取リース料	743
減価償却費	1,287
受取利息相当額	11

iv) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額の差額を利息相当額とし、利息相当額の各期への配分方法については、利息法によっています。

## 5. 剰余金処分計算書

(単位：千円)

科 目	28年度	29年度
1 当期末処分剰余金	103,911	98,317
計	103,911	98,317
2 剰余金処分数額	51,418	44,324
(1) 利益準備金	12,000	10,000
(2) 任意積立金	30,000	25,000
営農振興積立金	12,000	10,000
経営安定対策積立金	6,000	5,000
特別積立金	12,000	10,000
(3) 出資配当金	9,418	9,324
普通出資に対する配当金	9,418	9,324
3. 次期繰越剰余金	52,492	53,993

(注) 1. 普通出資に対する配当の割合は、次のとおりです。

平成28年度 2.0% 平成29年度 2.0%

2. 目的積立金の種類、積立目的、積立目標額、積立基準等は次のとおりです。

名 称	肥料協同購入積立金	営農振興積立金	経営安定対策積立金
積立目的	肥料価格の期中変動があった場合、農家負担の軽減をはかり、農家の経営安定に資すること	営農指導事業の改善発達による営農振興を図るため、営農指導に係る費用の全部又は一部の確保	経営の健全化及び安定化を図るため、新たな会計基準や債権等資産の償却、南海大震災による被害復興財源の確保、施設の耐震化、農林年金制度の完了等による多額の費用発生による経営リスクに備える
積立目標額	859,260円	1,000,000,000円	200,000,000円
積立基準	①年間契約数量に基づき品目別に積み立てる ②積立対象品目・単価	毎事業年度の剰余金(繰越欠損のある場合には、これを補てんした後の残額)の5分の1に相当する金額以上	積立金は、毎事業年度の剰余金(繰越欠損のあるときは、それを補てんした後の残額)の10分の1以上積立するものとし、総代会において承認された金額を積み立てる。
	尿素、硝安、硫加、燐安、高度化成		
	750円		
	石灰窒素、塩加、NK化成		
	600円		
	硫安、塩安、過石、重過石、溶燐、重焼燐、普通化成、有機配合、有機化成		
	450円		

取崩基準	<p>期中改訂により肥料価格が値上がりし、農家に相当の負担が発生する場合、全国農業協同組合連合会の通知に基づき、積立金を限度として価格上昇相当額を取り崩す。</p>	<p>取り崩しは行わない。ただし、農業振興等に係る予測しない事象が将来発生したときは、総会の議決を得て取り崩す。</p>	<p>新たな会計基準への対応により、多額の費用が発生した場合。</p> <p>債権等資産の償却により、多額の費用が発生した場合。</p> <p>南海大震災による被害により、多額の費用が発生した場合。</p> <p>施設の耐震化により、多額の費用が発生した場合。</p> <p>農林年金の制度完了により、多額の費用が発生した場合。</p>
当期末残高	859,260 円	101,700,000 円	12,000,000 円

3. 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額が含まれています。

平成 28 年度            3,000 千円

平成 29 年度            2,500 千円

6. 部門別損益計算書（平成29年度）

（単位：千円）

区 分	計	信 用 事 業	共 済 事 業	農業関連 事 業	生活その他 事 業	営 農 指 導 事 業	共通管理費等
事業収益 ①	2,769,003	304,961	304,383	1,817,483	342,065	109	
事業費用 ②	1,872,864	48,697	21,733	1,490,512	301,257	10,664	
事業総利益③（①－②）	896,138	256,263	282,650	326,971	40,808	△10,554	
事業管理費 ④	858,284	181,305	166,469	407,998	39,012	63,498	
（うち減価償却費⑤）	(65,874)	(11,448)	(3,446)	(49,097)	(1,408)	(474)	
（うち人件費 ⑤'）	(632,098)	(112,737)	(146,365)	(287,008)	(29,786)	(56,201)	
うち共通管理費 ⑥		24,695	19,419	45,815	7,491	48	△97,470
（うち減価償却費⑦）		(1,669)	(1,332)	(3,119)	(493)	(0)	(△6,615)
（うち人件費 ⑦'）		(19,516)	(15,256)	(36,307)	(5,989)	(45)	(△77,115)
事業利益 ⑧（③－④）	37,854	74,958	116,180	△81,026	1,795	△74,053	
事業外収益 ⑨	40,991	15,905	9,219	15,597	234	34	
うち共通分 ⑩		1,351	1,068	2,329	383	9	△5,141
事業外費用 ⑪	6,056	716	318	4,893	103	24	
うち共通分 ⑫		384	318	677	103	0	△1,483
経常利益 ⑬（⑧＋⑨－⑪）	72,789	90,148	125,081	△70,323	1,926	△74,043	
特別利益 ⑭	57,421	－	－	57,421	－	－	
うち共通分 ⑮		－	－	－	－	－	－
特別損失 ⑯	61,923	460	329	60,963	168	0	
うち共通分 ⑰		427	329	826	143	0	△1,727
税引前当期利益 ⑱ （⑬＋⑭－⑯）	68,287	89,687	124,751	△73,865	1,758	△74,043	
営農指導事業分配賦金額 ⑲		34,595	34,053	5,200	193	△74,043	
営農指導事業分配賦後 税引前当期利益 ⑳ （⑱－⑲）	68,287	55,091	90,698	△79,066	1,564		

（注）1. 共通管理費等及び営農指導事業の他部門への配賦基準等は、次のとおりです。

- (1) 共通管理費等 事業総利益割・人頭割・人件費を除く事業管理費割の3つの配賦比率を三平均した配賦比率を使用しています。
- (2) 営農指導事業 (1)の指導・管理部門を除いて再計算した配賦比率を使用しています。

2. 配賦割合（1の配賦基準で算出した配賦の割合）は、次のとおりです。

（単位：％）

区 分	信 用 事 業	共 済 事 業	農業関連 事 業	生活その他事業	営 農 指 導 事 業	計
共通管理費等	25.34	19.92	47.00	7.69	0.05	100.00
営農指導事業	46.73	45.99	7.02	0.26		100.00

3. 部門別の資産

（単位：千円）

区 分	計	信 用 事 業	共 済 事 業	農業 関 連 事 業	生活その他 事 業	営 農 指 導 事 業	共通資産
事業別の総資産	39,587,040	35,549,547	529,694		2,734,504		773,294
総資産（共通資産配分後） （うち固定資産）	(39,587,040) (1,511,874)	(35,745,499) (152,630)	(683,734) (96,648)		(3,157,805) (1,262,596)		

## 7. 財務諸表の正確性等にかかる確認

### 確認書

- 1 私は、当 JA の平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの事業年度にかかるディスクロージャー誌に記載した内容のうち、財務諸表作成に関するすべての重要な点において、農業協同組合法施行規則に基づき適正に表示されていることを確認いたしました。
- 2 この確認を行うに当たり、財務諸表が適正に作成される以下の体制が整備され、有効に機能していることを確認しております。
  - (1) 業務分掌と所管部署が明確化され、各部署が適切に業務を遂行する体制が整備されております。
  - (2) 業務の実施部署から独立した内部監査部門が内部管理体制の適切性・有効性を検証しており、重要な事項については理事会等に適切に報告されております
  - (3) 重要な経営情報については、理事会等へ適切に付議・報告されております。

平成 30 年 7 月 20 日  
土佐市農業協同組合  
代表理事組合長 馬場 義人

## II 損益の状況

### 1. 最近の5事業年度の主要な経営指標

(単位：千円、口、人、%)

項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
経常収益（事業収益）	3,231,515	2,964,636	2,725,953	2,841,554	2,769,003
信用事業収益	344,498	337,104	330,107	323,094	304,961
共済事業収益	303,275	307,450	315,361	319,113	304,383
農業関連事業収益	2,173,282	1,923,414	1,772,416	1,858,038	1,817,483
生活その他事業収益	410,329	396,544	307,944	341,049	342,065
営農指導事業収益	128	123	123	259	109
経常利益	120,642	92,556	61,394	99,850	72,789
当期剰余金	86,903	60,144	56,562	56,942	45,825
出資金 （出資口数）	498,310 (99,662)	490,935 (98,187)	485,205 (97,041)	478,910 (95,782)	473,380 (94,676)
純資産額	3,071,026	3,113,244	3,151,270	3,191,871	3,226,778
総資産額	39,861,425	40,782,160	40,983,309	41,085,047	39,587,040
貯金等残高	35,089,272	35,748,951	35,717,479	35,943,623	34,462,643
貸出金残高	4,975,232	4,520,561	4,177,948	3,964,223	3,642,684
剰余金配当金額	9,901	9,736	9,533	9,418	9,324
出資配当額	9,901	9,736	9,533	9,418	9,324
事業利用分量配当額	—	—	—	—	—
職員数	115	121	121	122	121
単体自己資本比率	22.67	21.45	22.12	21.49	22.23

(注) 1. 経常収益は各事業収益の合計額を表しています。

2. 当期剰余金は、銀行等の当期利益に相当するものです。

3. 信託業務の取扱いはありません。

4. 「単体自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」（平成18年金融庁・農水省告示第2号）に基づき算出しております。

### 2. 利益総括表

(単位：千円、%)

項 目	28年度	29年度	増 減
資金運用収支	261,166	260,167	△999
役務取引等収支	9,392	9,523	130
その他信用事業収支	△8,476	△13,426	△4,950
信用事業粗利益 (信用事業粗利益率)	262,083 (0.72)	256,263 (0.73)	△5,820 (0.1)
事業粗利益 (事業粗利益率)	946,797 (2.31)	896,138 (2.23)	△50,659 (△0.08)

### 3. 資金運用収支の内訳

(単位：千円、%)

項 目	28年度			29年度		
	平均残高	利 息	利 回	平均残高	利 息	利 回
資金運用勘定	36,024,835	300,556	0.83	35,056,203	287,112	0.82
うち預金	31,909,898	216,695	0.68	31,194,507	210,141	0.67
うち有価証券	—	—	—	—	—	—
うち貸出金	4,114,937	83,860	2.04	3,861,696	76,971	1.99
資金調達勘定	36,012,925	39,136	0.11	35,124,192	26,900	0.08
うち貯金・定期積金	36,002,028	39,124	0.11	35,114,069	26,883	0.08
うち譲渡性貯金	—	—	—	—	—	—
うち借入金	10,897	12	0.11	10,123	16	0.16
総資金利ざや	—	—	0.29	—	—	0.28

(注) 1. 総資金利ざや＝資金運用利回り－資金調達原価率（資金調達利回＋経費率）

2. 資金運用勘定の利息欄の預金には、信連からの事業利用分量配当金、貯蓄増強奨励金、特別対策奨励金等奨励金が含まれています。

### 4. 受取・支払利息の増減額

(単位：千円)

項 目	28年度増減額	29年度増減額
受 取 利 息	△11,603	△13,442
うち預金	△835	△6,553
うち有価証券	—	—
うち貸出金	△10,767	△6,888
支 払 利 息	△10,241	△12,236
うち貯金・定期積金	△10,230	△12,240
うち譲渡性貯金	—	—
うち借入金	△10	4
差引	△1,362	△1,205

(注) 1. 増減額は前年度対比です。

2. 受取利息の預金には、信連からの事業利用分量配当金、貯蓄増強奨励金、特別対策奨励金等奨励金が含まれています。



### Ⅲ 事業の概況

#### 1. 信用事業

##### (1) 貯金に関する指標

##### ① 科目別貯金平均残高

(単位：千円, %)

種 類	28年度	29年度	増 減
流動性貯金	10,033,935 (27.87)	10,507,213 (29.92)	473,278
定期性貯金	25,928,937 (72.02)	24,558,028 (69.94)	△1,370,909
その他の貯金	39,155 (0.11)	48,827 (0.14)	9,672
計	36,002,028 (100.00)	35,114,069 (100.00)	△887,958
譲渡性貯金	—	—	—
合 計	36,002,028 (100.00)	35,114,069 (100.00)	△887,958

- (注) 1. 流動性貯金＝当座貯金＋普通貯金＋貯蓄貯金＋通知貯金  
 2. 定期性貯金＝定期貯金＋定期積金  
 3. ( )内は構成比です。

##### ② 定期貯金残高

(単位：千円, %)

種 類	28年度	29年度	増 減
定期貯金	25,182,923 (100.00)	23,379,976 (100.00)	△1,802,947
うち固定金利定期	25,181,313 (99.99)	23,378,366 (99.99)	△1,802,947
うち変動金利定期	1,610 (0.01)	1,610 (0.01)	0

- (注) 1. 固定金利定期：預入時に満期日までの利率が確定する定期貯金  
 2. 変動金利定期：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期貯金  
 3. ( )内は構成比です。

## (2) 貸出金等に関する指標

### ① 科目別貸出金平均残高

(単位：千円)

種 類	28年度	29年度	増 減
手形貸付	—	—	—
証書貸付	3,728,153	3,477,878	△250,274
当座貸越	185,784	182,817	△2,966
割引手形	—	—	—
金融機関貸付	201,000	201,000	—
合 計	4,114,937	3,861,696	△253,241

### ② 貸出金の金利条件別内訳残高

(単位：千円, %)

種 類	28年度	29年度	増 減
固定金利貸出	3,089,246 (77.93)	2,782,224 (76.38)	△307,021
変動金利貸出	685,291 (17.29)	678,546 (18.63)	△6,745
その他	189,685 (4.78)	181,913 (4.99)	△7,772
合 計	3,964,223 (100.00)	3,642,684 (100.00)	△321,539

(注) ( )内は構成比です。

### ③ 貸出金の担保別内訳残高

(単位：千円)

種 類	28年度	29年度	増 減
貯金・定期積金等	144,742	144,906	163
有価証券	—	—	—
動 産	—	—	—
不動産	437,341	407,366	△29,975
その他担保物	66,055	52,556	△13,499
小 計	648,140	604,828	△43,311
農業信用基金協会保証	2,073,675	1,986,908	△86,767
その他保証	188,820	187,918	△901
小 計	2,262,495	2,174,826	△87,669
信 用	1,053,587	863,029	△190,558
合 計	3,964,223	3,642,684	△321,539

④ 債務保証の担保別内訳残高

該当する取引はありません。

⑤ 貸出金の使途別内訳残高

(単位：千円、%)

種 類	28年度	29年度	増 減
設備資金	3,288,694 (82.96)	3,016,422 (82.81)	△272,271
運転資金	675,529 (17.04)	626,261 (17.19)	△49,267
合 計	3,964,223 (100.00)	3,642,684 (100.00)	△321,539

(注) ( )内は構成比です。

⑥ 貸出金の業種別残高

(単位：千円、%)

種 類	28年度	29年度	増 減
農業	1,047,488(26.42)	994,446 (27.30)	△53,041
林業	— (—)	290 (0.01)	290
水産業	5,854(0.15)	5,525 (0.15)	△329
製造業	131,290(3.31)	128,074 (3.52)	△3,215
鉱業	—	—	—
建設・不動産業	81,999(2.07)	79,541 (2.18)	△2,457
電気・ガス・熱供給水道業	945(0.02)	719 (0.02)	△226
運輸・通信業	38,004(0.96)	35,179 (0.96)	△2,824
金融・保険業	205,227(5.18)	204,642 (5.62)	△585
卸売・小売・サービス業・飲食業	393,968(9.94)	376,573 (10.34)	△17,394
地方公共団体	852,587(21.51)	662,029 (18.17)	△190,558
非営利法人	—	—	—
その他	1,206,857(30.44)	1,155,662 (31.73)	△51,195
合 計	3,964,223 (100.00)	3,642,684 (100.00)	△321,539

(注) 1. ( )内は構成比(貸出金全体に対する割合)です。

2. 農業関連の残高の増加は管理システムの仕様変更に伴うものです。

⑦ 主要な農業関係の貸出金残高

1) 営農類型別

(単位：百万円)

種 類	28年度	29年度	増 減
農業	720	678	△42
穀作	6	7	1
野菜・園芸	477	427	△50
果樹・樹園農業	60	66	6
工芸作物	—	—	—
養豚・肉牛・酪農	1	1	0
養鶏・養卵	—	—	—
養蚕	—	—	—
その他農業	173	176	3
農業関連団体等	—	—	—
合計	720	678	△42

(注)1. 農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人および農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

なお、上記⑥の貸出金の業種別残高の「農業」は、農業者や農業法人等に対する貸出金の残高です。

- 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。
- 「農業関連団体等」には、JA や全農(経済連)とその子会社等が含まれています。

2) 資金種類別

[貸出金]

(単位：百万円)

種 類	28年度	29年度	増 減
プロパー資金	328	317	△11
農業制度資金	391	360	△31
農業近代化資金	319	305	△14
その他制度資金	72	55	△17
合計	720	678	△42

(注)1. プロパー資金とは、当組合原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

- 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAが低利で融資するもの、③日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは①の転貸資金と②を対象としています。

3. その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

〔受託貸付金〕

該当する取引はありません。

⑧ リスク管理債権の状況

(単位：千円)

区 分	28年度	29年度	増 減
破綻先債権額	9,088	24,851	15,763
延滞債権額	172,555	174,843	2,287
3ヵ月以上延滞債権額	25,388	21,427	△3,960
貸出条件緩和債権額	—	—	—
合 計	207,032	221,122	14,089

(注)1. 破綻先債権

元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金)をいいます。

2. 延滞債権

未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外の貸出金をいいます。

3. 3ヵ月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している貸出金で、破綻先債権および延滞債権に該当しないものをいいます。

4. 貸出条件緩和債権

債務者の再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

⑨ 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況

(単位：千円)

債権区分		債権額	保全額			
			担保	保証	引当	合計
破産更生債権 及びこれらに 準ずる債権	28年度	75,182	9,904	10,967	54,310	75,182
	29年度	72,404	16,076	9,448	46,878	72,404
危険債権	28年度	106,462	32,574	53,849	20,038	106,462
	29年度	127,291	37,794	64,566	24,930	127,291
要管理債権	28年度	25,388	22,061	—	—	22,061
	29年度	21,427	20,603	—	—	20,603
小 計	28年度	207,032	64,539	64,841	74,349	203,706
	29年度	221,122	74,473	740,148	71,809	220,298
正常債権	28年度	3,766,626				
	29年度	3,430,331				
合 計	28年度	3,973,659				
	29年度	3,651,453				

(注) 上記の債権区分は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(平成10年法律第132号)第6条に基づき、債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として、次のとおり区分したものです。なお、当JAは同法の対象とはなっていませんが、参考として同法の定める基準に従い債権額を掲載しております。

①破産更生債権及びこれらに準ずる債権

法的破綻等による経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

②危険債権

経営破綻の状況にはないが、財政状況の悪化等により元本および利息の回収ができない可能性の高い債権

③要管理債権

3ヵ月以上延滞貸出債権および貸出条件緩和債権

④正常債権

上記以外の債権

⑩ 元本補てん契約のある信託に係る貸出金のリスク管理債権の状況

該当する取引はありません。

⑪ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：千円)

区 分	28年度				期末残高
	期首残高	期中増加額	期中減少額		
			目的使用	その他	
一般貸倒引当金	22,518	15,183	—	22,518	15,183
個別貸倒引当金	82,710	74,349	3,401	79,309	74,349
合 計	105,229	89,532	3,401	101,828	89,532

区 分	29年度				期末残高
	期首残高	期中増加額	期中減少額		
			目的使用	その他	
一般貸倒引当金	15,183	14,452	—	15,183	14,452
個別貸倒引当金	74,349	71,809	—	74,349	71,809
合 計	89,532	86,262	—	89,532	86,262

(注) 「目的使用」とは貸倒償却分の戻入額、「その他」は回収・洗替えによる戻入額です。

⑫ 貸出金償却の額

(単位：千円)

項 目	28年度	29年度
貸出金償却	1,861	—

### (3) 内国為替取扱実績

(単位：千件、千円)

種 類		28 年度		29 年度	
		仕 向	被 仕 向	仕 向	被 仕 向
送金・振込為替	件 数	6	37	6	36
	金 額	4,709,577	5,435,620	3,073,299	5,390,274
代金取立為替	件 数	0	0	—	—
	金 額	76	4	—	—
雑 為 替	件 数	0	0	0	0
	金 額	25,428	7,578	25,032	8,546
合 計	件 数	7	37	7	37
	金 額	4,735,082	5,443,203	3,098,331	5,398,821

### (4) 有価証券に関する指標

該当する取引はありません。

### (5) 有価証券等の時価情報等

該当する取引はありません。



## 2. 共済取扱実績

### (1) 長期共済新契約高・長期共済保有高

(単位：千円)

種 類		28年度		29年度	
		新契約高	保有高	新契約高	保有高
生命 総合 共済	終身共済	2,156,878	45,723,083	635,979	44,753,727
	定期生命共済	20,000	130,000	—	130,000
	養老生命共済	694,559	27,511,528	153,700	24,266,343
	うちこども共済	151,900	5,768,000	87,200	5,523,000
	医療共済	36,000	787,950	7,500	721,450
	がん共済	—	278,500	—	274,500
	定期医療共済	—	366,700	—	351,200
	介護共済	128,446	477,784	77,282	549,067
	年金共済	—	80,000	—	75,000
建物更生共済		5,130,310	77,181,040	9,614,790	77,173,630
合 計		8,166,194	152,536,586	10,489,251	148,294,918

(注) 金額は、保障金額（がん共済はがん死亡共済金額、医療共済及び定期医療共済は死亡給付金額（付加された定期特約金額等を含む）、年金共済は付加された定期特約金額）を表示しています。

### (2) 医療系共済の入院共済金額保有高

(単位：千円)

種 類	28年度		29年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
医療共済	2,935	24,808	1,129	25,308
がん共済	479	5,657	232	5,877
定期医療共済	—	1,309	—	1,244
合 計	3,414	31,774	1,362	32,429

(注) 金額は、入院共済金額を表示しています。

### (3) 介護共済の介護共済金額保有高

(単位：千円)

種 類	28年度		29年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
介護共済	175,365	728,296	85,740	806,907
合 計	175,365	728,296	85,740	806,907

(注) 金額は、介護共済金額を表示しています。

### (4) 年金共済の年金保有高

(単位：千円)

種 類	28年度		29年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
年金開始前	26,816	322,255	32,431	320,657
年金開始後	—	254,691	—	258,020
合 計	26,816	576,947	32,431	578,677

(注) 金額は、年金金額 (利率変動型年金にあっては最低保証年金額) を表示しています。

### (5) 短期共済新契約高

(単位：千円)

種 類	28年度		29年度	
	金額	掛金	金額	掛金
火災共済	4,023,290	4,293	4,108,900	4,470
自動車共済		279,132		280,031
傷害共済	26,033,500	5,474	28,299,000	5,514
団体定期生命共済	—	—	—	—
定額定期生命共済	4,000	39	4,000	39
賠償責任共済		585		603
自賠責共済		85,209		82,929
合 計		374,734		373,588

(注) 1. 金額は、保障金額を表示しています。

2. 自動車共済、賠償責任共済、自賠責共済は掛金総額です。

### 3. 農業関連事業取扱実績

#### (1) 買取購買品（生産資材）取扱実績

(単位：千円)

種 類	28年度		29年度	
	供給高	手数料	供給高	手数料
肥 料	320,065	44,602	302,508	41,283
農 薬	351,324	50,090	324,620	47,287
飼 料	2,742	496	2,265	394
農業機械	129,493	17,606	66,948	14,226
施設資材	278,877	29,979	250,975	30,945
自 動 車	4,726	1,539	4,240	1,615
燃 料	311,421	64,321	410,271	62,115
合 計	1,398,651	208,635	1,361,831	197,867

#### (2) 受託販売品取扱実績

(単位：千円)

種 類	28年度		29年度	
	販売高	手数料	販売高	手数料
米	75,015	3,537	75,821	3,585
野 菜	4,872,405	89,997	4,814,625	89,028
果 実	449,574	8,330	418,715	7,757
花き・花木	789,708	11,082	735,847	10,236
畜 産 物	18,187	83	16,049	74
特 産 物	—	—	—	—
合 計	6,204,890	113,030	6,061,059	110,682

#### (3) 利用事業取扱実績

(単位：千円)

種 類	28年度	29年度
	取扱高	取扱高
精 米 機	—	—
育 苗 セ ン タ ー	7,752	7,555
レンタルハウス利用料	5,133	6,096
合 計	12,885	13,652

#### (4) 直販事業取扱実績

(単位：千円)

項 目	28年度	29年度
直 販 収 益	2,422	2,271
直 販 費 用	322	327
差 引	2,100	1,943

#### 4. 生活その他事業取扱実績

##### (1) 買取購買品（生活物資）取扱実績

(単位：千円)

種 類	28年度		29年度	
	供給高	手数料	供給高	手数料
食 品	29,367	3,797	27,509	3,078
衣 料 品	3,182	497	2,528	430
耐久消費財	182	58	795	103
日用保健雑貨	31,484	4,584	25,608	3,105
家庭燃料	170,115	26,659	185,842	29,230
そ の 他	99,103	7,786	92,656	7,312
合 計	333,435	43,384	334,940	43,261

##### (2) 買取販売品取扱実績

(単位：千円)

種 類	28年度		29年度	
	販売高	手数料	販売高	手数料
あおぞらいち	58,187	10,635	58,206	10,003
加工品	1,959	563	1,998	683
宅配	23,448	5,902	24,520	6,481
合 計	83,594	17,101	84,725	17,168

##### (3) 利用事業取扱実績

(単位：千円)

種 類	28年度	29年度
	取扱高	取扱高
大 型 洗 濯 機	431	472
合 計	431	472

#### 5. 指導事業

(単位：千円)

項 目		28年度	29年度
収 入	指導補助金	—	—
	指導雑収入	734	841
	計	734	841
支 出	指導支出	14,048	13,699
	計	14,048	13,699

#### IV 経営諸指標

##### 1. 利益率

(単位：%)

項目	28年度	29年度	増減
総資産経常利益率	0.24	0.18	△0.06
資本経常利益率	3.15	2.26	△0.89
総資産当期純利益率	0.14	0.11	△0.03
資本当期純利益率	1.79	1.43	△0.36

- (注) 1. 総資産経常利益率＝経常利益／総資産（債務保証見返を除く）平均残高×100  
 2. 資本経常利益率＝経常利益／純資産勘定平均残高×100  
 3. 総資産当期純利益率  
     ＝当期剰余金（税引後）／総資産（債務保証見返りを除く）平均残高×100  
 4. 資本当期純利益率＝当期剰余金（税引後）／純資産勘定平均残高×100

##### 2. 貯貸率・貯証率

(単位：%)

区分		28年度	29年度	増減
貯貸率	期末	11.03	10.57	△0.46
	期中平均	11.43	11.00	△0.43
貯証率	期末	—	—	—
	期中平均	—	—	—

- (注) 1. 貯貸率（期末）＝貸出金残高／貯金残高×100  
 2. 貯貸率（期中平均）＝貸出金平均残高／貯金平均残高×100  
 3. 貯証率（期末）＝有価証券残高／貯金残高×100  
 4. 貯証率（期中平均）＝有価証券平均残高／貯金平均残高×100

### 3. 職員一人当たり指標

(単位：千円)

項 目		28年度	29年度
信用事業	貯金残高	2,240,874	2,160,667
	貸出金残高	1,179,828	1,087,368
共済事業	長期共済保有高	6,917,759	6,028,248
経済事業	購買品取扱高	50,571	51,730
	販売品取扱高	179,825	199,344

(注) 各事業の職員数については、年間を通して携わった人数で計算している。

### 4. 一店舗当たり指標

(単位：千円)

項 目	28年度	29年度
貯金残高	11,981,207	11,487,547
貸出金残高	1,321,407	1,214,228
長期共済保有高	50,845,528	49,431,639
購買品供給高	577,362	565,590

(注) 各事業の店舗数については、期末時点のものとする。

## V 自己資本の充実の状況

### 1. 自己資本の構成に関する事項

(単位：千円、%)

項 目	28年度		29年度	
		経過措置 による不 算入額		経過措置 による不 算入額
コア資本に係る基礎項目				
普通出資又は非累積の永久優先出資に係る組合員資本の額	3,179,753		3,214,614	
うち、出資金及び資本準備金の額	479,076		473,546	
うち、再評価積立金の額	5,355		5,355	
うち、利益剰余金の額	2,711,355		2,747,761	
うち、外部流出予定額 (△)	(△) 9,418		(△) 9,324	
うち、上記以外に該当するものの額	(△) 6,615		(△) 2,725	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	19,851		22,007	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	19,851		22,007	
うち、適格引当金コア資本算入額	—		—	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
うち、回転出資金の額	—		—	
うち、上記以外に該当するものの額	—		—	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
コア資本にかかる基礎項目の額 (イ)	3,199,604		3,236,621	
コア資本に係る調整項目				
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	556	370	687	171
うち、のれんに係るものの額	—	—	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	556	370	687	171
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	—	—	—	—
適格引当金不足額	—	—	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—	—	—
前払年金費用の額	—	—	—	—
自己保有普通出資等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—	—	—

項 目		28年度		29年度	
			経過措置 による不 算入額		経過措置 による不 算入額
	うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形 固定資産に関連するものの額	—	—	—	—
	うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。） に関連するものの額	—	—	—	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額		—	—	—	—
	うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当する ものに関連するものの額	—	—	—	—
	うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形 固定資産に関連するものの額	—	—	—	—
	うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。） に関連するものの額	—	—	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)		556		687	
自己資本					
自己資本の額 (イ) — (ロ) (ハ)		3,199,048		3,235,934	
リスク・アセット等					
信用リスク・アセットの額の合計額		13,614,418		13,279,134	
	うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入さ れる額の合計額	△1,077,890		△1,017,499	
	うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サ ービシング・ライツに係るものを除く）	370		171	
	うち、繰延税金資産	—		—	
	うち、前払年金費用	—		—	
	うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△1,078,260		△1,017,671	
	うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差 額に係るものの額	—		—	
	うち、上記以外に該当するものの額	—		—	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除し て得た額		1,266,870		1,275,485	
信用リスク・アセット調整額		—		—	
オペレーショナル・リスク相当額調整額		—		—	
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)		14,881,288		14,554,620	
自己資本比率					
自己資本比率 (ハ) / (ニ)		21.49		22.23	

(注)1. 「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成27年金融庁・農水省告示第7号)に基づき算出しています。

2. 当JAは、信用リスク・アセット額の算出にあつては標準的手法、適格金融資産担保の適用については信用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあつては基礎的手法を採用しています。

3. 当JAが有するすべての自己資本とリスクを対比して、自己資本比率を計算しています。



## 2. 自己資本の充実度に関する事項

### ① 信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分ごとの内訳

(単位：千円)

信用リスク・アセット	28年度			29年度		
	エクスポージャー の期末残高	リスク・アセ ット額 a	所要自己 資本額 b=a×4%	エクスポージャー の期末残高	リスク・アセッ ト額 a	所要自己 資本額 b=a×4%
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	852,824	—	—	662,215	—	—
地方公共団体金融機関向け	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	31,869,558	6,373,911	254,956	30,725,146	6,145,029	245,801
法人等向け	—	—	—	—	—	—
中小企業等向け及び個人向け	99,156	23,786	951	95,988	22,778	911
抵当権付住宅ローン	181,151	62,867	2,514	174,574	60,759	2,430
不動産取得等事業向け	152,605	152,605	6,104	144,423	144,423	5,776
三月以上延滞等	356,198	191,756	7,670	332,076	142,683	5,707
信用保証協会等保証付	2,072,102	200,552	8,022	1,990,295	191,991	7,679
共済の貸付	64,494	—	—	73,280	—	—
出資等	298,788	297,460	11,898	299,588	298,966	11,958
他の金融機関等の対象資本調達手段	1,589,747	3,974,367	158,974	1,549,354	3,873,385	154,935
特定項目のうち調整項目に算入されないもの	—	—	—	—	—	—
複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	—	—	—	—	—	—
証券化	—	—	—	—	—	—
経過措置によりリスク・アセットの額を算入・不算入となるもの	—	△1,077,890	△43,115	—	△1,017,499	△40,699
上記以外	3,769,083	3,415,000	136,600	3,766,235	3,416,616	136,664
標準的手法を適用するエクスポージャー別計	41,305,710	13,614,418	544,576	39,813,179	13,279,134	531,165
CVA リスク相当額÷8%	—	—	—	—	—	—
中央清算機関関連エクスポージャー	—	—	—	—	—	—
信用リスク・アセットの額の合計額	41,305,710	13,614,418	544,576	39,813,179	13,279,134	531,165
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額 < 基礎的手法 >	オペレーショナル・リスク相当 額を8%で除して得た額	所要自己 資本額 b=a×4%	オペレーショナル・リスク相当額 を8%で除して得た額	所要自己 資本額 b=a×4%		
	a	b=a×4%	a	b=a×4%		
		1,266,870	50,674	1,275,485	51,019	
所要自己資本総計	リスク・アセット等(分母)計	所要自己 資本額 b=a×4 %	リスク・アセット等(分母)計	所要自己 資本額 b=a×4%		
	a	b=a×4 %	a	b=a×4%		
		14,881,288	595,251	14,554,620	582,184	

- (注) 1. 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポージャーの種類ごとに記載しています。
2. 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。
3. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。
4. 「出資等」とは、出資等エクスポージャー、重要な出資のエクスポージャーが該当します。
5. 「証券化（証券化エクスポージャー）」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポージャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポージャーのことです。

6. 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入・不算入となるもの」とは、他の金融機関等の対象資本調達手段、コア資本に係る調整項目（無形固定資産、前払年金費用、繰延税金資産等）および土地再評価差額金に係る経過措置により、リスク・アセットに算入したもの、不算入としたものが該当します。
7. 「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未決済取引・その他の資産（固定資産等）・間接清算参加者向け・信用リスク削減手法として用いる保証またはクレジットデリバティブの免責額が含まれます。
8. 当 JA では、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたって、基礎的手法を採用しています。  
 <オペレーショナル・リスク相当額を 8% で除して得た額の算出方法（基礎的手法）>  
 （粗利益（正の値の場合に限る）×15%）の直近 3 年間の合計額

$$\frac{\text{粗利益（正の値の場合に限る）の直近 3 年間の合計額}}{\text{直近 3 年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

### 3. 信用リスクに関する事項

#### ① 標準的手法に関する事項

当 JA では自己資本比率算出にかかる信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付等は次のとおりです。

(ア) リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付けは、以下の適格格付機関による依頼格付けのみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適 格 格 付 機 関
株式会社格付投資情報センター(R&I)
株式会社日本格付研究所(JCR)
ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク(Moody's)
S&P グローバル・レーティング(S&P)
フィッチレーティングスリミテッド(Fitch)

(注) 「リスク・ウェイト」とは、当該資産を保有するために必要な自己資本額を算出するための掛目のことです。

(イ) リスク・ウェイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリー・リスク・スコアは、主に以下のとおりです。

エクスポージャー	適 格 格 付 機 関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向けエクスポージャー		日本貿易保険
法人等向けエクスポージャー (長期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	
法人等向けエクスポージャー (短期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	

② 信用リスクに関するエクスポージャー(地域別,業種別,残存期間別)及び三月以上延滞エクスポージャーの期末残高

(単位:千円)

	28年度					29年度				
	信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち貸出金等	うち債券	うち店頭デリバティブ	三月以上延滞エクスポージャー	信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち貸出金等	うち債券	うち店頭デリバティブ	三月以上延滞エクスポージャー
国内	41,305,710	3,971,853	—	—	356,198	39,813,179	3,649,730	—	—	332,076
国外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地域別残高計	41,305,710	3,971,853	—	—	356,198	39,813,179	3,649,730	—	—	332,076
法人	農業	10,005	10,005	—	—	5,951	5,951	—	—	—
	林業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	水産業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	製造業	15,843	15,843	—	—	15,406	15,406	—	—	—
	鉱業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	建設・不動産業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	運輸・通信業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	金融・保険業	33,473,053	201,589	—	—	32,288,771	201,588	—	—	—
	卸売・小売・飲食・サービス業	21,872	—	—	—	21,872	—	—	—	—
	日本国政府・地方公共団体	852,824	852,824	—	—	—	662,215	662,215	—	—
	上記以外	298,788	—	—	—	—	310,723	11,134	—	—
個人	3,134,816	2,891,590	—	—	334,325	3,005,771	2,753,434	—	—	332,076
その他	3,498,505	—	—	—	—	3,524,338	—	—	—	—
業種別残高計	41,305,710	3,971,853	—	—	356,198	39,813,179	3,649,730	—	—	332,076
残存期間別残高計	1年以下	31,939,149	69,591	—	—	30,791,737	66,591	—	—	—
	1年超3年以下	553,949	553,949	—	—	394,749	394,749	—	—	—
	3年超5年以下	252,044	252,044	—	—	251,279	251,279	—	—	—
	5年超7年以下	479,762	479,762	—	—	386,710	386,710	—	—	—
	7年超10年以下	296,303	296,303	—	—	452,786	452,786	—	—	—
	10年超	2,051,310	2,051,310	—	—	1,853,801	1,853,801	—	—	—
	期限の定めのないもの	5,733,191	268,892	—	—	—	5,682,114	243,812	—	—
残存期間別残高計	41,305,710	3,971,853	—	—	356,198	39,813,179	3,649,730	—	—	332,076

- (注) 1. 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「貸出金等」とは、貸出金のほか、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランスシート・エクスポージャーを含んでいます。「コミットメント」とは、契約した期間および融資枠の範囲でお客様のご請求に基づき、金融機関が融資を実行する契約のことをいいます。「貸出金等」にはコミットメントの融資可能残額も含めています。
3. 「店頭デリバティブ」とは、スワップ等の金融派生商品のうち相対で行われる取引のものをいいます。
4. 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞しているエクスポージャーをいいます。
5. 「その他」には、ファンドのうち個々の資産の把握が困難な資産や固定資産等が該当します。

③ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：千円)

区 分	28年度					29年度				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	27,832	19,851	—	27,832	19,851	19,851	22,007	—	19,851	22,007
個別貸倒引当金	219,952	200,486	15,917	202,783	201,738	201,738	204,368	—	201,115	204,991

(注) 個別貸倒引当金には、外部出資等損失引当金を含んでいます。

④ 業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額及び貸出金償却の額

(単位：千円)

区 分	28年度						29年度					
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却
			目的使用	その他					目的使用	その他		
国内	219,952	200,486	15,917	202,783	201,738		201,738	204,368	—	201,115	204,991	
国外	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	
地域別計	219,952	200,486	15,917	202,783	201,738		201,738	204,368		201,115	204,991	
法人	農業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	林業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	水産業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	製造業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鉱業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	建設・不動産業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	運輸・通信業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	金融・保険業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	卸売・小売・飲食・サービス業	21,872	21,872	—	21,872	21,872	—	21,872	—	—	21,872	—
上記以外	1,251	76	—	—	1,327	—	1,327	—	—	704	622	—
個人	196,828	178,538	15,917	180,910	178,538	1,861	178,538	204,368	—	178,538	204,368	429
業種別計	219,952	200,486	15,917	202,783	201,738	1,861	201,738	204,368	—	201,115	204,991	11,365

⑤ 信用リスク削減効果勘案後の残高及びリスク・ウエイト 1250%を適用する残高  
(単位：千円)

		28年度			29年度		
		格付あり	格付なし	計	格付あり	格付なし	計
信用リスク削減効果勘案後残高	リスク・ウエイト 0%	—	1,400,991	1,400,991	—	1,214,556	1,214,556
	リスク・ウエイト 2%	—	—	—	—	—	—
	リスク・ウエイト 4%	—	—	—	—	—	—
	リスク・ウエイト 10%	—	2,005,524	2,005,524	—	1,920,033	1,920,033
	リスク・ウエイト 20%	—	31,883,587	31,883,587	—	30,739,682	30,739,682
	リスク・ウエイト 35%	—	179,620	179,620	—	173,598	173,598
	リスク・ウエイト 50%	—	198,762	198,762	—	216,040	216,040
	リスク・ウエイト 75%	—	31,640	31,640	—	30,299	30,299
	リスク・ウエイト 100%	—	4,186,974	4,186,974	—	4,138,631	4,138,631
	リスク・ウエイト 150%	—	112,620	112,620	—	74,148	74,148
	リスク・ウエイト 200%	—	1,306,360	1,306,360	—	1,306,360	1,306,360
	リスク・ウエイト 250%	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—
リスク・ウエイト 1250%		—	—	—	—	—	—
計		—	41,306,081	41,306,081	—	39,813,351	39,813,351

- (注) 1. 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「格付あり」にはエクスポージャーのリスク・ウエイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」にはエクスポージャーのリスク・ウエイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお、格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。
3. 経過措置によってリスク・ウエイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウエイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。
4. 1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティブの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスポージャーなどリスク・ウエイト 1250%を適用したエクスポージャーがあります。

#### 4. 信用リスク削減手法に関する事項

##### ① 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

「信用リスク削減手法」とは、自己資本比率算出における信用リスク・アセット額の算出において、エクスポージャーに対して一定の要件を満たす担保や保証等が設定されている場合にエクスポージャーのリスク・ウエイトに代えて、担保や保証人に対するリスク・ウエイトを適用するなど信用リスク・アセット額を軽減する方法です。

当 JA では、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出要領」にて定めています。

信用リスク削減手法として、「適格金融資産担保」、「保証」、「貸出金と自組合貯金の相殺」を適用しています。

適格金融資産担保付取引とは、エクスポージャーの信用リスクの全部または一部が、取引相手または取引相手のために第三者が提供する適格金融資産担保によって削減されている取引をいいます。当 JA では、適格金融資産担保取引について信用リスク削減手法の簡便手法を用いています。

保証については、被保証債権の債務者よりも低いリスク・ウエイトが適用される中央政府等、我が国の地方公共団体、地方公営企業等金融機構、我が国の政府関係機関、外国の中央政府以外の公共部門、国際開発銀行、及び金融機関または第一種金融商品取引業者、これら以外の主体で長期格付が A-または A3 以上の格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポージャーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウエイトに代えて、保証人のリスク・ウエイトを適用しています。

貸出金と自組合貯金の相殺については、①取引相手の債務超過、破産手続開始の決定その他これらに類する事由にかかわらず、貸出金と自組合貯金の相殺が法的に有効であることを示す十分な根拠を有していること、②同一の取引相手との間で相殺契約下にある貸出金と自組合貯金をいずれの時点においても特定することができること、③自組合貯金が継続されないリスクが監視及び管理されていること、④貸出金と自組合貯金の相殺後の額が、監視および管理されていること、の条件をすべて満たす場合に、相殺契約下にある貸出金と自組合貯金の相殺後の額を信用リスク削減手法適用後のエクスポージャー額としています。

担保に関する評価及び管理方針は、一定のルールのもと定期的に担保確認及び評価の見直しを行っています。なお、主要な担保の種類は自組合貯金です。

② 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：千円)

区 分	28 年度			29 年度		
	適格金融 資産担保	保証	クレジッ ト・デリ バティブ	適格金融 資産担保	保証	クレジッ ト・デリ バティブ
地方公共団体金融機構向け	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け	—	—	—	—	—	—
法人等向け	—	—	—	—	—	—
中小企業等向け及び個人向け	2,718	281	—	3,621	265	—
抵当権住宅ローン	—	—	—	—	—	—
不動産取得等事業向け	—	—	—	—	—	—
三月以上延滞等	—	—	—	—	—	—
証券化	—	—	—	—	—	—
中央清算機関関連	—	—	—	—	—	—
上記以外	52,086	—	—	50,074	—	—
合計	54,804	281,301	—	53,695	265	—

- (注)1. 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、主なものとしては貸出金や有価証券等が該当します。
2. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。
3. 「証券化（証券化エクスポージャー）」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポージャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポージャーのことです。
4. 「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未決済取引・その他の資産（固定資産等）が含まれます。
5. 「クレジット・デリバティブ」とは、第三者（参照組織）の信用リスクを対象に、信用リスクを回避したい者（プロテクションの買い手）と信用リスクを取得したい者（プロテクションの売り手）との間で契約を結び、参照組織に信用事由（延滞・破産など）が発生した場合にプロテクションの買い手が売り手から契約に基づく一定金額を受領する取引をいいます。

5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はありません。

6. 証券化エクスポージャーに関する事項

該当する取引はありません。



## 7. 出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項

### ① 出資その他これに類するエクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

「出資その他これに類するエクスポージャー」とは、主に貸借対照表上の有価証券勘定及び外部出資勘定の株式又は出資として計上されているものであり、当JAにおいては、これらを①その他有価証券、②系統および系統外出資に区分して管理しています。

①その他の有価証券については中長期的な運用目的で保有するものであり、適切な市場リスクの把握およびコントロールに努めています。具体的には、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及びポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会で運用方針を定めるとともに経営層で構成するALM委員会を定期的開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。

②系統出資については、会員としての総会等への参画を通じた経営概況の監督に加え、日常的な協議を通じた連合会等の財務健全化を求めており、系統外出資についても同様の対応を行っています。

なお、これらの出資の他これに類するエクスポージャーの評価等については、①その他有価証券については時価評価を行った上で、取得原価との評価差額については、「その他有価証券評価差額金」として純資産の部に計上しています。②系統および系統外出資については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて外部出資等損失引当金を設定しています。また、評価等重要な会計方針の変更等があれば、注記表にその旨記載することとしています。

### ② 出資の他これに類するエクスポージャーの貸借対照表計上額及び時価

(単位：千円)

	28年度		29年度	
	貸借対照表計上額	時価評価額	貸借対照表計上額	時価評価額
上場	6,110	6,110	6,304	6,304
非上場	1,680,836	1,680,836	1,641,049	1,641,049
合計	1,686,946	1,686,946	1,647,354	1,647,354

(注) 「時価評価額」は、時価のあるものは時価、時価のないものは貸借対照表計上額の合計額です。

### ③ 出資の他これに類するエクスポージャーの売却及び償却に伴う損益

該当する取引はありません。

### ④ 貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額 (保有目的区分をその他有価証券としている株式・出資の評価損益等)

(単位：千円)

28年度		29年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
3,730	—	3,925	—

### ⑤ 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額 (子会社・関連会社株式の評価損益等)

該当する取引はありません。

## 8. 金利リスクに関する事項

### ① 金利リスクの算定方法の概要

金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在する中で金利が変動することにより、利益が減少ないし損失を被るリスクをいいます。

当 JA では、金利リスク量を計算する際の基本的な事項を「金利リスク量計算要領」に、またリスク情報の管理・報告にかかる事項を「余裕金運用等にかかるリスク管理手続」に定め、適切なリスクコントロールに努めています。具体的な金利リスクの算定方法、管理方法は以下のとおりです。

- ・市場金利が上下に 2% 変動した時（ただし 0% を下限）に発生する経済価値の変化額（低下額）を金利リスク量として 4 半期毎に算出しています。
- ・要求払貯金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がなく、貯金者の要求によって随時払い出される要求払貯金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する貯金をコア貯金と定義し、①過去 5 年の最低残高、②過去 5 年の最大年間流出量を現残高から差し引いた残高、③現残高の 50% 相当額のうち、最小の額を上限とし、0～5 年の期間に均等に振り分けて（平均残存 2.5 年）リスク量を算定しています。
- ・金利リスクは、運用勘定の金利リスク量と調達勘定の金利リスク量を相殺して算定します。

$$\text{金利リスク} = \text{運用勘定の金利リスク量} + \text{調達勘定の金利リスク量} (\Delta)$$

### ② 金利ショックに対する損益・経済価値の増減額

（単位：千円）

	28 年度	29 年度
金利ショックに対する損益・経済価値の増減額	△3,450	△7,897

（注）当 JA では市場金利が上下に 0.1% 変動した時（ただし 0% を下限）に受ける金利リスク量を算出しておりますが、平成 29 年度においては金利が 0.1% 上昇した場合、または、下落した場合、どちらにおいても経済価値が低下しないため、リスク量を 0 として表示しています。なお、平成 29 年度の BPV（ベーク・ポイント・バリュー：金利が 0.01% 上昇した場合の経済価値変化額）は 15,808 千円となっております。

## 【役員等の報酬体系】

### 1. 役員

#### (1) 対象役員

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象役員」は理事及び監事をいいます。

#### (2) 役員報酬等の種類、支払総額及び支払方法について

役員に対する報酬等の種類は、基本報酬と退職慰労金の2種類で、平成29年度における対象役員に対する報酬等の支払総額は、次のとおりです。

なお、基本報酬は毎月所定日に指定口座への振り込みの方法による現金支給のみであり、退職慰労金は、その支給に関する総代会決議後、所定の手続きを経て、基本報酬に準じた方法で支払っています。

(単位：千円)

	支給総額	
	基本報酬	退職慰労金
対象役員に対する報酬等	34,458	—

(注1) 対象役員は理事12名、監事4名です。(期中に退任した者を含む。)

(注2) 退職慰労金については、本年度に実際に支給した額ではなく、当期の費用として認識される部分の金額(引当金への繰入額と支給額のうち当期の負担に属する金額)によっています。

#### (3) 対象役員の報酬等の決定等について

##### ①役員報酬(基本報酬)

役員報酬は、理事及び監事の別に各役員に支給する報酬総額の最高限度額を総代会において決定し、その範囲内において、理事各人別の報酬額については理事会において決定し、監事各人別の報酬額については監事の協議によって定めています。なお、業績連動型の報酬体系とはなっておりません。

この場合の役員各人別の報酬額決定にあたっては、各人の役職・責務を勘案して決定しています。

##### ②役員退職慰労金

役員退職慰労金については、毎年年収額を1ヶ月に換算した額に1.5を乗じたものを引き当て、総代会で理事及び監事の別に各役員に支給する退職慰労金の総額の承認を受けた後、役員退職慰労金引当基準に基づき、理事については理事会、監事については監事の協議によって各人別の支給額と支給時期・方法を決定し、その決定に基づき支給しています。

### 2. 職員等

#### (1) 対象職員等

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象職員等」の範囲は、当JAの職員であって、常勤役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者のうち、当JAの業務及び財産の状況に重要な影響を与える者をいいます。

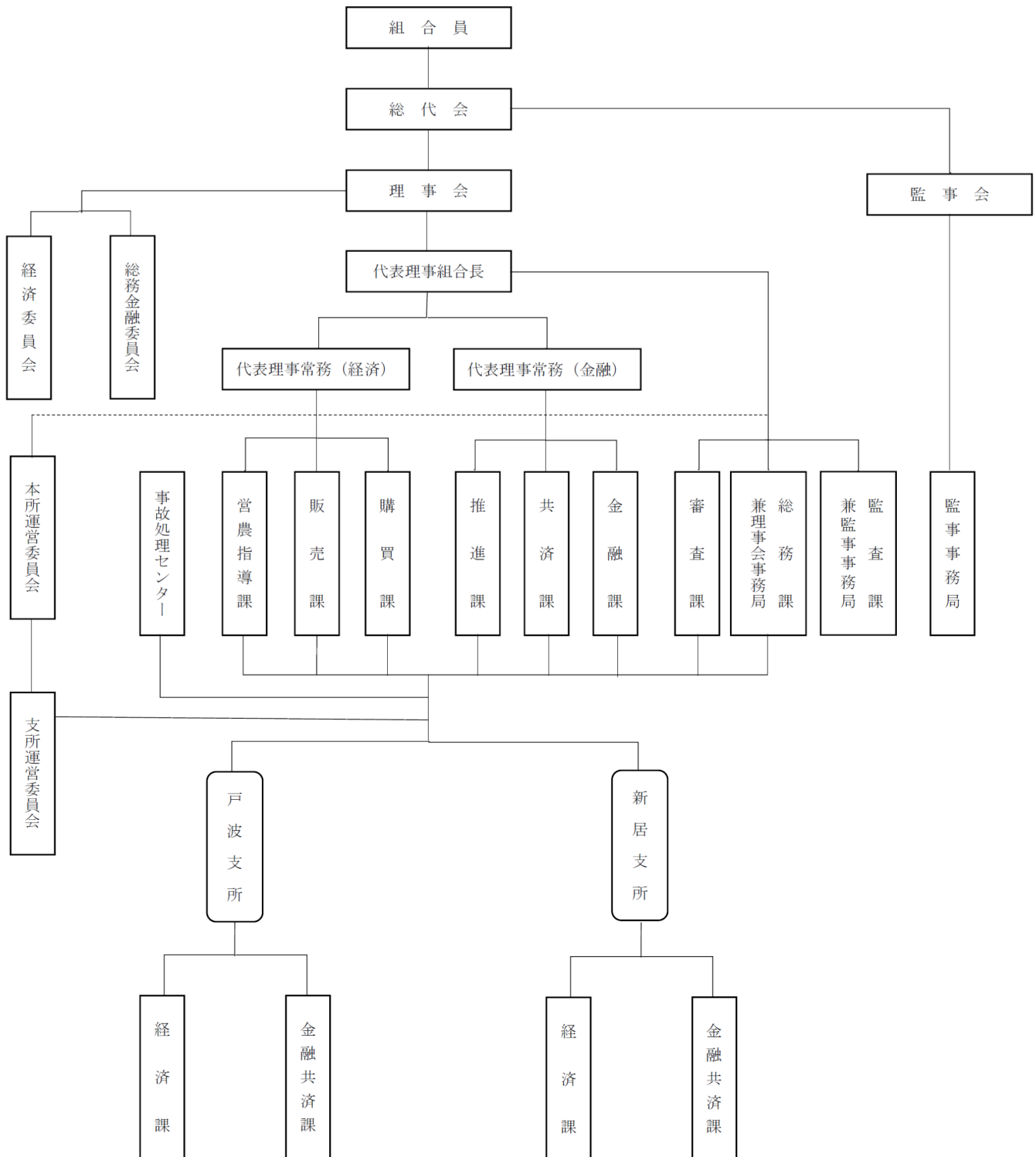
なお、平成29年度において、対象職員等に該当する者はありませんでした。

### 3. その他

当JAの対象役員及び対象職員等の報酬等の体系は、上記開示のとおり過度なリスクテイクを惹起するおそれのある要素はありません。したがって、報酬告示のうち、「対象役員及び対象職員等の報酬等の体系とリスク管理の整合性並びに対象役員及び対象職員等の報酬等と業績の連動に関する事項」その他「報酬等の体系に関し参考となるべき事項」として、記載する内容はありせん。

【JAの概要】

1. 機構図（平成30年3月末現在）



## 2. 役員構成（役員一覧）

（平成 30 年 3 月末現在）

役員	担当職務	氏名	摘要
代表理事組合長		馬場 義人	実践的能力者
代表理事常務	金融	濱田 良彦	実践的能力者
代表理事常務	経済	宇賀 裕生	実践的能力者
理事	総務金融	小川 和章	
理事	総務金融	西本 澄男	
理事	総務金融	石元 千恵	女性理事
理事	総務金融	矢野 泰幸	
理事	経済	野瀬 泰廣	認定農業者
理事	経済	松岡 史子	女性理事
理事	経済	矢野 修一郎	認定農業者
理事	経済	横山 忠彦	
理事	経済	山本 倫弘	認定農業者
常勤監事 （代表監事）		岡本 明夫	実践的能力者
監事 （員外監事）		立野 美則	
監事		津野 賢二	
監事		塩見 泰正	

### 3. 組合員数

(単位：人)

	28年度末	29年度末	増減
正組合員数	2,942	2,854	△88
個人	2,936	2,844	△92
法人	6	10	4
准組合員数	1,365	1,419	54
個人	1,364	1,418	54
法人	1	1	0
合計	4,307	4,273	△34

### 4. 組合員組織の状況

#### (1) 組合内の組合員組織

(単位：人)

組 織 名	構成員数	
園芸部（役員のみ）	31	
園 芸 部	キュウリ部会	60
	ピーマン部会	50
	シシトウ部会	22
	インゲン部会	8
	メロン部会	32
	スイカ部会	5
	ニラ部会	17
	青ネギ部会	39
	生姜部会	88
	ハウス新生姜部会	11
	土佐文旦部会	116
	落葉果樹部会	4
	施設果樹部会	57
	花卉球根部会	31
	花卉草花部会	10
青壮年部	146	
女性部	362	

#### (2) 組合外の組合員組織

該当する組織はありません。

## 5. 地区一覧

(市) 土佐市

(地区) 波介・高岡・北原・戸波・蓮池・高石・宇佐・新居

## 6. 店舗等のご案内

### 店舗一覧

(平成 30 年 3 月末現在)

店舗名	住 所	電話番号	ATM 設置台数
本 所	土佐市蓮池 948-1	088-854-0321	1 台
戸波支所	土佐市家俊 1070	088-855-0231	1 台
新居支所	土佐市新居 968-1	088-856-1121	1 台
-----			
(店舗外設置 ATM)			
-----			
みのり館	土佐市蓮池 1008-1	088-850-2580	1 台
サニーマーケット 高岡店	土佐市高岡町甲 343		1 台
サンシャイン オリビオ店	土佐市高岡町乙 2750-1		1 台
波介 ATM	土佐市波介 4383-1		1 台
北原 ATM	土佐市北地 642-2		1 台
宇佐 ATM	土佐市宇佐町宇佐 1804		1 台

(店舗外 ATM 設置台数 6 台)